

岩波駅周辺 まちづくりの道しるべ

- まちづくりデザインノート -
〈技術編〉



令和 6 年 3 月



静岡県
Susono City

裾野市

目 次

「岩波駅周辺まちづくりの道しるべ」〈技術編〉について	1
1 交流と賑わいを生む居場所	2
2 設計方針の実現に向けたデザインの考え方	4
3 全体図	6
4 デザイン対象	8
5 デザインの考え方	9
全エリア共通	9
（1）岩波駅周辺の良好な景観形成	10
（2）色彩	12
（3）未来技術	14
デザイン対象物（全体）	15
（1）舗装	16
（2）柵類	18
（3）照明	20
（4）植栽	22
（5）サイン・路面標示	24
デザイン対象物（エリア毎）	26
（1）国道 246 号横断歩道橋エリア	26
（2）黄瀬川公園エリア	34
（3）黄瀬川橋梁エリア	44
（4）岩波駅周辺エリア	50

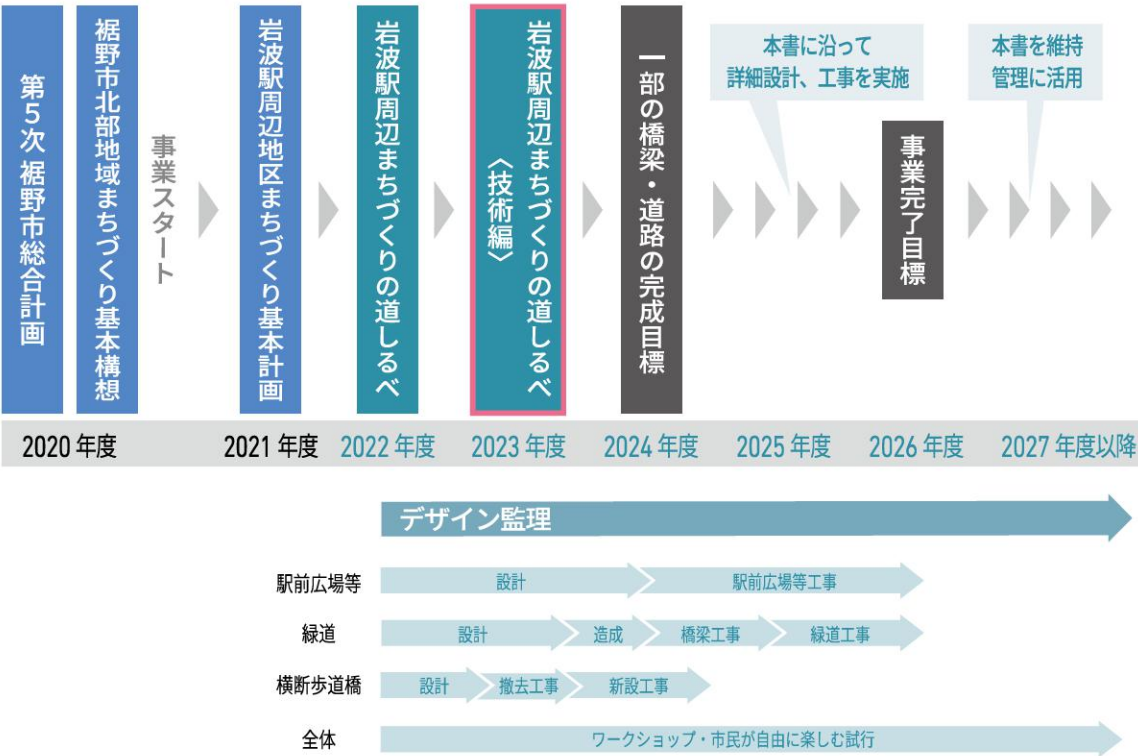
「岩波駅周辺まちづくりの道しるべ」
〈技術編〉について

市では、2023 年 3 月に、岩波駅周辺の「まちづくりデザイン」の基本的な指針である「岩波駅周辺まちづくりの道しるべ」（以下、「道しるべ」という。）を作成し、岩波駅周辺整備の具現化に際して、道しるべに沿って関係機関と協議・調整を行ってきました。

今年度新たに作成した本書「岩波駅周辺まちづくりの道しるべ〈技術編〉」（以下、〈技術編〉という。）は、「道しるべ」をさらに発展させた、本事業に関わる設計・施工者のためのガイドラインです。

設計図面にはデザイン監修者の意図を記すことができません。そのため、設計方針の実現に向けたデザインの考え方を〈技術編〉で示すものとします。「道しるべ」と〈技術編〉を合わせて参照することにより、設計意図をより深く理解することができ、今後の設計や施工の手助けとなるとともに、事業完了後の維持管理においても、この考え方を継承していくものとします。

「道しるべ」の主題『富士山麓の美しい風景に未来技術が溶け込む、地域が主役のまちづくり』の理解を深め、引き継がれていくまちづくりデザインとなり、市民や利用する方々が岩波駅周辺のまちを大事にしたくなる思いが芽生える空間となることを願うとともに、心地の良い日常の一部となる岩波駅周辺のまちを目指します。



事業工程と〈技術編〉活用のイメージ

1 交流と賑わいを生む居場所

交流・賑わいを生むアイデアのタネ

岩波駅周辺企業へのヒアリング結果や市で実施したアンケートの結果等をもとに、賑わいづくりや官民連携事業に活かしていくための「アイデアのタネ」としてとりまとめました。

デザインの考え方においては、これらの活動を想定した空間のありかたを検討しています。

- う
- ・散歩やジョギングをしたい
 - ・パーソナルモビリティに乗りたい
 - ・シェアサイクルを使いたい

- え
- ・製作した竹灯かりを並べたい(お)
 - ・野外にアート作品を展示したい
 - ・富士山をバックにした撮影スポット(写真映えるポイント)がほしい



参考画像：富山県美術館屋上

- お
- ・園路を散策したい
 - ・竹林整備活動で発生した廃材の竹を活用したい
 - ・製作した竹灯かりを道沿いに並べて、夜景を楽しむイベントをしたい
 - ・野外にアート作品を展示したい



参考画像：市民ワークショップの竹灯かりイベントの様子

- し
- ・マルシェなどのイベントを行いたい
 - ・キッチンカーが入れるスペースをつくりたい
 - ・イベント用の電源がほしい
 - ・水道施設がほしい
 - ・おしゃれなカフェでお茶したい

- ・きれいなトイレを使いたい
- ・スーパーの移動販売が来てほしい
- ・犬の散歩をしたい
- ・ひまわりを植えて水やりをして育てたい
- ・市民ワークショップができるスペースがほしい

- あ
- ・箱根山方面の眺望を楽しみたい
 - ・飲み物や書類を置ける場所がほしい
 - ・座って休むことのできる空間がほしい

- い
- ・パーソナルモビリティに乗りたい
 - ・シェアサイクルを使いたい

- か
- ・坂道がきついで途中で座って休憩をしたい
 - ・富士山を眺めたい
 - ・竹灯かりを並べたい(お)
 - ・散歩やジョギングをしたい
 - ・シェアサイクルを使いたい

- き
- ・富士山を眺めながら休憩したい
 - ・食事を楽しみたい
 - ・パソコン作業用の電源がほしい
 - ・1人で本を読みたい
 - ・勉強や自習・宿題をしたい
 - ・複数人で会合をしたい
 - ・友達と会話を楽しみたい
 - ・天気の良い日も快適にしたい(屋根・テント、照明)
 - ・近くに手を洗う水道がほしい

- こ
- ・散歩やジョギングをしたい
 - ・シェアサイクルを使いたい
 - ・黄瀬川を眺めたい
 - ・富士山やイベントの様子を眺めたい

- く さ
- ・張り出しデッキでイベントをしたい
 - ・張り出しデッキから黄瀬川を眺めたい
 - ・富士山を眺めながら休憩したい
 - ・食事を楽しみたい
 - ・パソコン作業用の電源がほしい
 - ・1人で本を読みたい

- ・勉強や自習・宿題をしたい
- ・複数人で会合をしたい
- ・友達と会話を楽しみたい
- ・天気の良い日も快適にしたい(屋根・テント、照明)
- ・近くに手を洗う水道がほしい

- す
- ・イベントスペースがほしい
 - ・市民ワークショップのスペースがほしい
 - ・イベント用の電源がほしい
 - ・水道施設がほしい

- た
- ・広い駐車場が欲しい
 - ・スーパーの移動販売が来てほしい

- そ
- ・天気の良い日も快適にしたい(屋根・テント、照明)
 - ・富士山を眺めながら休憩したい

- と
- ・市民ワークショップができるスペースがほしい
 - ・ワークショップで製作したものや道具などを置きたい
 - ・案内板や誘導サインがほしい
 - ・送迎を待つ場所がほしい

- ち
- ・ほたるを鑑賞したい
 - ・待ち合わせ場所がほしい
 - ・座って休憩したい

- て
- ・送迎を待つ場所がほしい
 - ・わかりやすい案内サインがほしい

- つ
- ・ひまわりを植えて、水やりをして育てる場所をつくりたい
 - ・植栽等への灌水のため、水道がほしい
 - ・待ち合わせの場所がほしい
 - ・座って富士山を眺めたい
 - ・案内板がほしい

- け
- ・地区の祭りをするためのスペースがほしい
 - ・防災訓練をするためのスペースがほしい
 - ・車での搬入搬出ができる管理用通路がほしい
 - ・市民ワークショップができるスペースがほしい

- せ
- ・パーソナルモビリティのスムーズな乗り降りがしたい
 - ・シェアサイクルを使いたい
 - ・誘導サインがほしい

※ウーブン・シティはトヨタ自動車(株)が建設を進める実証実験の街であり、裾野市の整備計画に含まれていません。

2 設計方針の実現に向けたデザインの考え方

「岩波駅周辺地区まちづくり基本計画」におけるまちの将来像へのアプローチとして、「まちづくりの道しるべ」では「富士山麓の美しい風景に未来技術が溶け込む、地域が主役のまちづくり」を主題とした設計方針を設定しています。

設計方針

1 富士山、愛鷹山、箱根山の
すそ野に広がるふるさとの
原風景を大切にするまちづくり

- ・富士山の眺望を活かした空間づくり
- ・黄瀬川の眺望と崖線の緑を活かした空間づくり
- ・溶岩の石積みや水路など、岩波の歴史を継承する空間づくり
- ・地元産芝生など地場の技術を活用した空間づくり
- ・周辺景観と調和したデザイン・素材・色彩の選定

2 未来技術を取り入れ、住む人・働く人・訪れる人
にとって居心地と使い勝手の良い
岩波の価値を高めるまちづくり

- ・歩行者が安心安全で、気持ちよく歩き憩う広場のような道づくり
- ・パーソナルモビリティや自動運転など新しいモビリティに対応できる空間づくり
- ・カーボンニュートラルや自然エネルギー発電など地球環境にやさしい空間づくり
- ・多様な利用者や利用に対応可能な使い勝手の良い交通広場づくり

3 人と人との交流が賑わいと
心地よい公共空間を創り出す
人が主役のまちづくり

- ・市民目線・市民協働の計画づくり
- ・子どもから高齢者まで多くの市民の日常的な居場所となる場づくり
- ・来訪者も気軽に利用ができる交流と賑わいの場づくり
- ・市民が公共空間を活用し主役となって活躍できる仕組みづくり
- ・新たな交流や賑わいづくりを支援する仕組みづくり

設計方針を踏まえ、本冊子「まちづくりの道しるべ〈設計編〉」では、各設計に具体的なデザイン方針として落とし込むため、「実現に向けたデザインの考え方」を設定しました。このあとの5章「デザインの考え方」において、これらの記号、番号を付記するものとします。

【実現に向けたデザインの考え方】

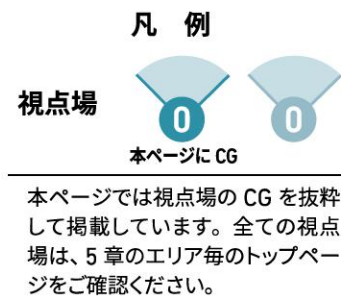
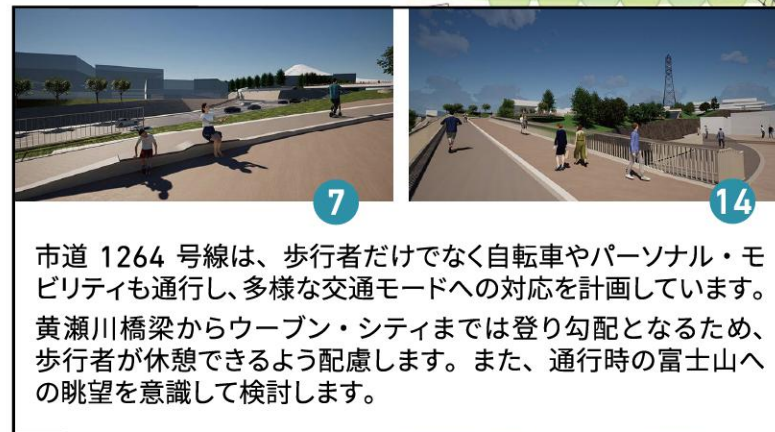
- A** 岩波駅からウーブン・シティまでの広場、道、公園の一体的な景観形成を行う。
 - A-1** 舗装、付属物、サイン、色彩、照明など統一したデザインとする
- B** 岩波の風景を尊重し、富士山・箱根山・黄瀬川への眺望を大事にするため、眺望を妨げない工夫に努める。
 - B-1** 歩行者動線から富士山・箱根山への遮蔽物を減らす
 - B-2** 高欄や柵等、立ち上がる構造物には透過性を持たせる
 - B-3** 視線の高さ以上の支柱を減らす
- C** 岩波の歴史を継承することを意識し、溶岩の石積みや水路などの地域資源や素材を活用する。
 - C-1** 既存用水路の活用
 - C-2** 周囲の緑に調和した自然由来の素材の選定
- D** 周辺景観との調和を図るため、構造物が主張しない配慮をする。
 - D-1** 橋梁等の水平基調の景観では、スレンダーな形状を選定し、構造物を最小化する等見えにくくする設えを検討する
 - D-2** 高低差処理は土（法面）を基本とし、擁壁構造とならないように努める
- E** 心地よい公共空間の醸成を支援するため、交流・賑わいがある居場所の設えづくりを意識する。
 - E-1** 座り場を中心とした複数の場（陰り場／眺め場／話し場／巡り場／灯り場／食場）を設ける
- F** 上記を踏まえた上で、次世代モビリティに対応した空間づくりなど、未来技術を取り入れることを検討する。
 - F-1** 次世代モビリティの走行性や安全性を確保する検討
 - F-2** 市民活動を支援する検討
 - F-3** 環境負荷低減を図る検討
- G** 国道246号新御宿横断歩道橋（仮称）周辺では、ウーブン・シティの入り口が利用者の視界に入ってくるため、ウーブン・シティと親和性を持たせることを意識したデザインを検討する。
- H** 良好な景観を保つために維持管理面に配慮する。
 - H-1** 維持管理しやすさを考慮することで、長く良好な状態を保てるように留意する
 - H-2** 経年変化を踏まえた素材等を使用するように考慮する

3 全体図

動線と視点場の整理

本事業により、3つの橋と公園内の緑道等を含む1本の道として、岩波駅からウーブン・シティまでS字を描くように、市道1264号線が付け変わります。

構造物等のデザインを検討するにあたり、場所の特徴や使い方を踏まえ重要となる視点場を抽出しました。また、視点場からの眺望や構造物の見え方、考慮すべき事項などを整理しました。



施工の進め方

本事業の施工は、ウーブン・シティ側の「国道246号横断歩道橋エリア」から始まり、岩波駅へ向かって、「黄瀬川公園エリア」、「黄瀬川橋梁エリア」、「岩波駅周辺エリア」の順に実施します。

視点場からの景観を考慮した無電柱化を進める検討を行います。

※ウーブン・シティはトヨタ自動車(株)が建設を進める実証実験の街であり、裾野市の整備計画に含まれていません。

※※「駅前拠点誘導施設(賑わい拠点誘導施設)」「観光交流拠点・情報発信施設」については民間活力を活用した整備を検討します。

4 デザイン対象

以下の図は、各構造物におけるデザイン対象を整理したものです。次章の「デザインの考え方」では、これらを「全エリア共通」の考え方と「デザイン対象物」の考え方に区分し、後者については、さらに「全体」と「エリア毎」に分けて整理していきます。

全体で整理 (P16～)
エリア毎に整理 (P26～)

橋梁	道路	公園	駅前広場
P6-7 全体図	動線計画・視点場		
	全エリア共通		
P10-11	景観形成		
P12-13	色彩		
P14	未来技術		
	デザイン対象物		
P16-17	舗装		
P18-19 (高欄)	柵類・車止め		
P20-21	照明		
P22-23	植栽		
P24-25	サイン・路面標示		
	構造物		
	境界縁石		
地覆		デッキ・ベンチ	
上部工		階段	
下部工		飛石	水景施設
		張り出しデッキ	
・国道246号横断歩道橋エリア ・黄瀬川公園エリア ・黄瀬川橋梁エリア			シェルター
			駐車場※
			ロータリー※
			賑わい拠点施設、モビリティハブ※
			・岩波駅周辺エリア
	・国道246号横断歩道橋エリア ・黄瀬川公園エリア ・黄瀬川橋梁エリア ・岩波駅周辺エリア	・黄瀬川公園エリア ・岩波駅周辺エリア	

※民間活力を導入した整備を検討中であるため、現時点では記載していません

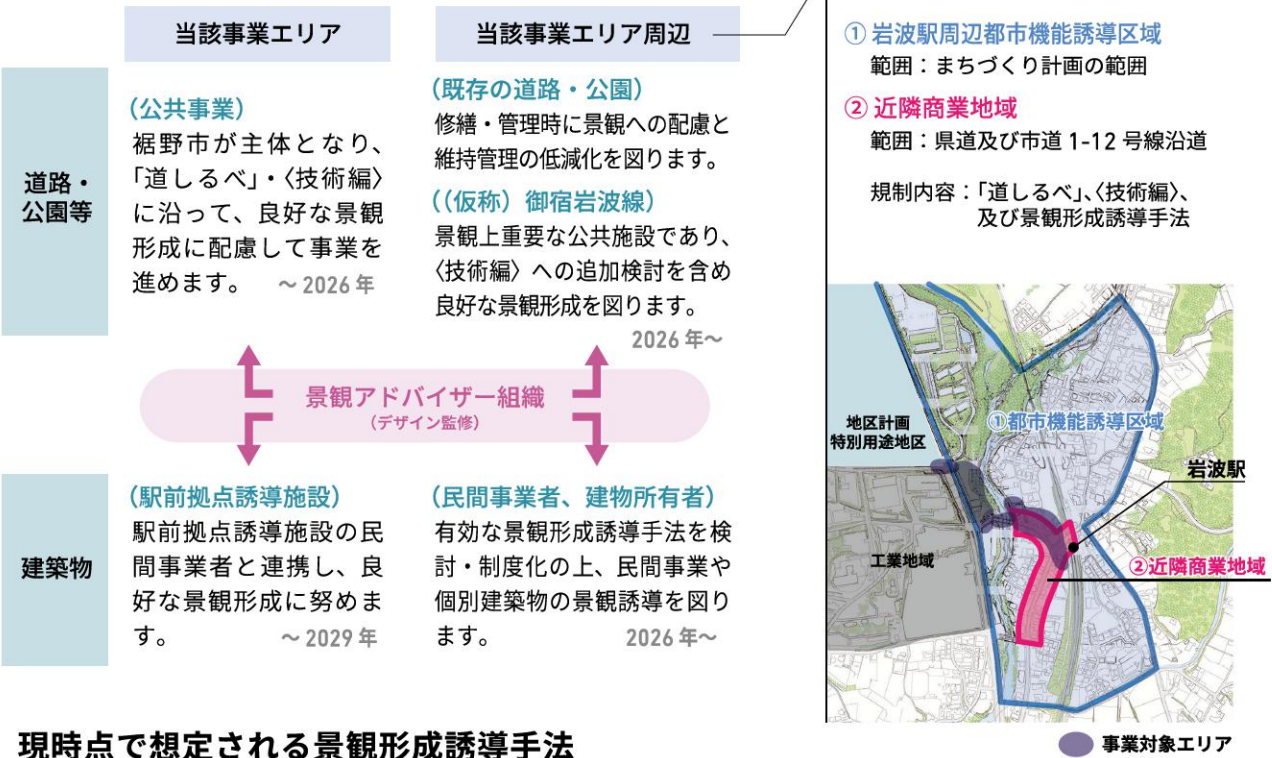
5 デザインの考え方

〈全エリア共通〉

05 デザインの考え方 / 全エリア共通

(1) 岩波駅周辺の良好な景観形成

景観形成を誘導すべき区域と対象



現時点で想定される景観形成誘導手法

公共事業だけではなく、岩波駅周辺地区全体の良好な景観形成を図り、維持していくための誘導手法を検討します。

提案 1 景観形成重点地区及び景観重要公共施設（裾野市景観計画）

規制対象範囲：当該事業エリア

当該事業エリアを景観形成重点地区に指定したうえで、黄瀬川、道路、歩道橋、駅等の景観重要公共施設の指定を加える。

提案 2 商業地景観ゾーン（裾野市景観計画、土地利用別景観形成方針より）

規制対象範囲：②岩波駅の近隣商業地域

提案 3 地区計画等

規制対象範囲：①まちづくり計画の範囲

定住促進のための宅地整備を目的とした土地区画整理事業が行われる場合に、同時に適用する。

行政の役割

景観アドバイザー組織（専門家の意見・デザイン監修）

岩波駅周辺のまちづくりでは、まちの一体感を創出するため専門家のアドバイスを心得て検討を進めています。地区内の先行する事業は、計画段階から施工段階に移ります。施工段階においても、技術編の精神・目標としているデザインが確実に実現できるよう、引き続き専門家のアドバイスを心得て進めます。

岩波駅周辺まちづくり推進会議（まちづくりのチェック）

岩波駅周辺まちづくり推進会議では、デザインの方向性の確認だけではなく、ウーブン・シティの整備による周辺環境の変化に応じたまちづくり全体の進捗管理や、利活用に向けた取組などの意見交換を継続的に行っていきます。

岩波駅周辺の景観計画

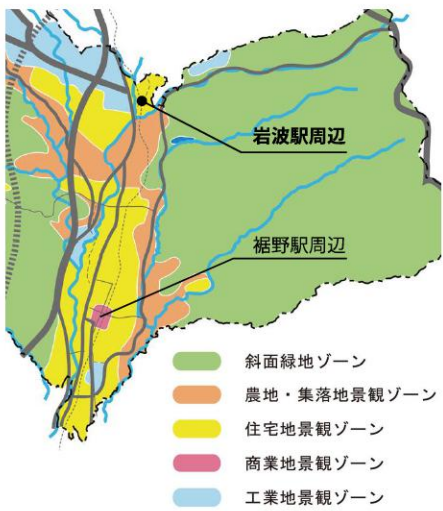
良好な景観形成のための計画制度として、裾野市景観計画（平成 25 年 3 月）が定められています。岩波駅周辺の良好な景観形成に向けたまちづくりの指針となるよう、景観計画の改正について検討を進めます。また、施設の屋外広告物や掲示物についても、誘導基準への配慮を促していきたいと考えています。

景観計画における岩波駅周辺の位置付け

裾野市景観計画（平成 25 年 3 月）の都市景観形成方針図において、岩波駅周辺は「市の顔となる駅周辺部等の景観の向上、賑わいある商業地景観の創出」に位置付けられています。地区別の区分は「深良地区」に該当し、岩波駅を中心とした市街地においては、以下の方針が示されています。

『後背の箱根山の斜面緑地景観と調和する、地区の拠点としてふさわしい景観づくりを進める』

なお、建築物の建築や工作物の建設、維持管理運営においては、上記方針、及び下表の「良好な景観形成のための指針」に適合するよう努めることとされています。また、行為の規模や要件によっては、景観法第 16 条第 1 項に基づく届出が必要となっています。



都市景観形成方針図（部分）

現在、岩波駅周辺は「住宅地景観ゾーン」（黄色）となっている。

景観形成誘導手法の提案 2（P.10）は、「商業地景観ゾーン」（ピンク）である裾野駅周辺のように、岩波駅周辺の近隣商業地域を「商業地景観ゾーン」として適用する手法である。

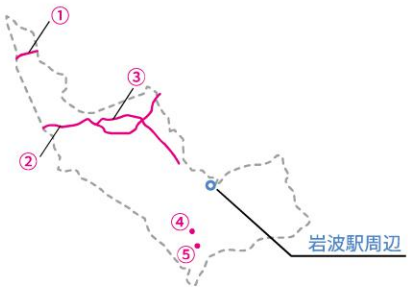
良好な景観形成のための指針

対 象	制 限 の 内 容
配 置	・富士山などの眺望を阻害しないような配置とすること。 ・周辺の地形やまち並みなど周辺景観から突出した印象とならないような配置とすること。
高 さ	・富士山などの眺望景観や自然景観、周辺のまち並み景観を阻害しない高さとする。
形 態	・建築物の形態や屋根形状は、後背の自然景観との調和に配慮するとともに、まち並み景観の統一感や連続性を高めるものとする。
壁 面	・建築物の壁面は、威圧感をできる限りなくすること。
色 彩	・建築物の壁面、屋根及び工作物の色彩は、周辺景観や後背の自然景観との調和に努め、彩度は抑えること。 ・色数は全体で 5 色以内となるように努め、木・土・コンクリート・ガラスなどは、その配色が著しく目立った印象とならないようにすること。
材 料	・材料は、外観の変化をすぐに起さないもの、または年月とともに落ち着いた雰囲気の出る材料の使用に努めること。
付 帯 設 備	・屋上に設ける設備（給排水管、ダクト、受水槽、冷却塔、アンテナなど）は、外部から見えない場所に設置する、または目隠しなどにより見えないようにすること。 ・太陽光発電設備は、目立たない場所への配置や周囲を植栽で目隠ししたりするなど、周辺から見え難くなるように努めること。 ・太陽光発電設備の太陽電池モジュール（パネル）は、反射が少なく模様が目立たないものの採用を図るとともに、設置場所との色彩の調和を図ること。
垣、柵、門柱・門扉	・道路等に面する柵などの施設は、建物本体や周辺のまち並みと調和するよう形態や色彩を工夫し、圧迫感のないものとする。
植 栽	・敷地内の既存樹木は、極力保全し、修景に活かすよう配慮すること。 ・敷地内や建築物等の緑化や花による修景に努めること。

（参考）裾野市の景観重要公共施設

道路：①市道 4008 号線、4053 号線、4054 号線（パノラマロード）／②国道 469 号
／③一般県道富士公園太郎坊線（富士山スカイライン）

公園：④中央公園／⑤小柄沢緑地



05 デザインの考え方 / 全エリア共通

(2) 色彩

- 面的で連続性のある整備であることから、色彩の統一性を確保し、景観に配慮する **A**
- 岩波の風景や富士山、箱根山、黄瀬川への眺望を妨げないよう、構造物及び道路附属物等の色彩は、対象地の「自然地」に近い景観の特徴を踏まえた明るめの色彩とし、軽やかな印象で背景に馴染ませる **B**
- 道路附属物の色彩は黄赤の色味を抑えることを基本とし、竹チップ舗装や洗い出し舗装の自然な骨材の色味、植物の緑や青色基調の空など「自然地」の色合いが感じられるよう配慮する **D**
- 経年変化による色味の変化を考慮し、耐久性の高い素材や徐々に周辺景観に馴染む素材を採用する **H**
(H-2)

色彩については、ふじのくに色彩・デザイン指針（静岡県）、景観に配慮した道路付属物等ガイドライン（国土交通省）等の指針やガイドラインとの整合を図るものとします。

ふじのくに色彩・デザイン指針による対象地の分析

●

空を中心とした青色

●

樹木を中心とした緑色

2023 年 2 月撮影

●

雪化粧をした富士山の白系の明るい色

●

土の茶系の色
ただし公園整備により変わる可能性あり

■森林（針葉樹）

山間地を通過する区間の沿道で、植林（針葉樹）の濃い緑・やや暗い景観を呈している。斜面地を通過する区間が多く、山側は法面、谷側に樹林が見られる。また、谷側に、眺望が開けている区間もある。

■森林（広葉樹）

山間地を通過する区間の沿道で、自然植生（広葉樹）の明るく・軽やかな景観を呈している。斜面地を通過する区間が多く、山側は法面、谷側に樹林が見られる。また、谷側に、眺望が開けている区間もある。

■地形優先

擁壁や法面のやや暗い景観を呈している。地形の起伏が激しく、沿道土地利用が景観として意識されず、沿道に擁壁や法面が多く見られる。

■茶畑・果樹園

茶葉や果樹の葉は明るく・軽やかな緑の景観を呈している。背景や遠景には、森林・樹林地の濃い緑が見られる。また、季節によって葉の色は大きく変化する。

■芝地・田

芝や稲は明るく・軽やかな緑の景観を呈している。季節によって葉の色は大きく変化する（初夏は軽やかな緑、秋は稲穂の色、冬は上乗の色）。背景や遠景には、森林・樹林地の濃い緑が見られる。

■農山村集落・荒地

生垣や宅地内植栽などによる緑量は比較的多い景観を呈している。荒地では、草の緑や裸地の土の景観を呈している。背景や遠景には、森林・樹林地の濃い緑が見られる。

■住宅地

既成住宅地は、板壁、屋根瓦、宅地内緑地や生垣など様々な形態・色彩の住宅が落ち着いた景観を呈している。郊外住宅地では、吹付壁や新建材の壁、塀や宅地内植栽など様々な形態・色彩の住宅が明るい景観を呈している。

■沿道商業地

屋外広告物や建物の外壁など様々な形態・色彩の建築物・工作物が乱立し、雑然とした景観を呈している。明度・彩度の高い色彩が多く見られる。

■都市商業地

駅周辺の都市の中心部などには、中高層の商業・業務建築物、個人商店等様々な形態・意匠の建築物が集積し、にぎやかな景観を呈している。沿道の建物の外壁は沿道商業地ほど明度・彩度は高くない。

■工業地

工場の外壁、設備や塀など無機質で人工的な景観を呈している。敷地の外周には緑化により、緑が見られる。景観の基調色は、外壁や塀などの灰色を主とした色相である。

■湖・河川

川面や湖水面、空などの明るく開放的な景観を呈している。沿岸には森林、住宅地、工業地など多様な色彩が見られる。

■海岸・港湾・漁港・漁村集落

水平線や海水面、空などの明るく開放的な景観を呈している。近景は磯浜、岩礁、漁港・港湾施設が見られ、背景や遠景は森林・樹林地の濃い緑が見られる。

対象地の特徴

対象地の特徴と道路附属物の塗装色が与える景観への影響

ふじのくに色彩・デザイン指針（静岡県）によると、対象地は緑地面積が少なく、空の比率が高い開放的な景観であることから、山間地ではなく「自然地」に近い特徴を有しています。そのため、本事業の高欄等の道路附属物、ファニチャー類は、明度を高くすると背景色（空）と調和しやすいと考えられます。

色が全体の印象に与える影響は大きく、特に、設置される場所の周辺景観、設置物の塗装面積によって印象が異なります。本事業では高欄に裾隠しが備えられる等、設置物の塗装面積が大きくなる場所もあり、ガイドライン・指針で推奨される 4 色のうち、最も明度の低いダークブラウンとした場合、背景色に対して重たい印象を与えます。※1

一方、明度の高い 2 色では、空を中心とした青基調の背景色（YR 系基調ではない）を考慮すると、グレーベージュに比べ無彩色に近いオフグレーのほうが、風景に馴染みやすくなります。※2（下表、波線部）

基本とする4色の特徴と留意点（○長所、◇短所）		
基本色名称 及び マンセル値	色の特徴	使い分けを検討する際の留意点
ダークグレー 10YR3.0/0.2	彩度が極めて低いため、無彩色に近い印象を与えることがある濃灰色	○沿道景観を選ばない（汎用性が高い） ○都心部や駅周辺など、景観をコントロールする場合の使い勝手が良い ◇明度、彩度が低いため歴史的な街並みと調和しやすい ◇ <u>塗装面が大きい道路附属物への使用や、開放的な沿道空間のある道路での使用は、重たい印象となることがある</u>
ダークブラウン 10YR2.0/1.0	4 色のなかで明度が最も低いため、ダークグレーよりも暗い色に感じられるこげ茶	○沿道景観を選ばない（汎用性が高い） ○明度が低いため、樹林地帯等のやや閉鎖的な自然景観のなかで道路附属物の存在感を主張しすぎない ○明度、彩度が低いため歴史的な街並みと調和しやすい ◇ <u>塗装面が大きい道路附属物への使用は重たい印象となることがある。 ※1</u> ◇彩度は低いが赤の色味があるため、経年変化による退色で赤みが浮き上がる場合がある
オフグレー 5Y7.0/0.5	色味をあまり感じない明るい自然な灰色	○周辺が比較的明るい色彩を基調とする地域の景観と調和しやすい ○YR 系以外を基調とする街なみにも調和しやすい ※2 ○明度が高いため、連続する道路附属物等においては、視線誘導効果が高い ◇ <u>鬱蒼とした樹林地や閉鎖的な沿道空間のある道路においては、塗装面が大きい道路附属物等に使用すると目立ちすぎる場合がある</u> ◇明度が高いため、夜間景観においては光を反射して必要以上に目立つ可能性がある
グレーベージュ 10YR6.0/1.0	黄赤の色味の彩度を低く抑えた薄灰茶色	○開放的で明るい色彩を基調とする地域の景観と調和しやすい ○明度が高いため、連続する道路附属物等においては、視線誘導効果が高い ◇ <u>鬱蒼とした樹林地や閉鎖的な沿道空間のある道路においては、塗装面が大きい道路附属物等に使用すると目立ちすぎる場合がある</u> ◇明度が高いため、夜間景観においては光を反射して必要以上に目立つ可能性がある

出典：景観に配慮した道路付属物等ガイドライン、2017年、国土交通省

高欄等の道路附属物・ファニチャー類の色彩

本事業では、ガイドライン・指針で推奨される 4 色の中で、背景色に対して最も透過性が高く、スレンダーで明るい印象を与える、オフグレーを推奨色とします。

大規模構造物の色彩 [鉄塔]

鉄塔等の大規模構造物についても、上記と同様の考えからオフグレーを推奨色とします。

ダークグレー
10YR3.0/0.2

ダークブラウン
10YR2.0/1.0

オフグレー
5Y7.0/0.5

グレーベージュ
10YR6.0/1.0

12

13

(3) 未来技術

次世代モビリティの走行性や安全性の確保

本事業では、環境負荷が少ない次世代モビリティの走行を想定した道路の整備を計画しています。そのため、モビリティの走行性に影響する路面の平滑性等を考慮した舗装（明色性・塑性変形抵抗性に優れる半たわみ性舗装）を検討します。また、歩行空間との分離や、特定小型原動機付自転車の交通ルールの理解を促し、安全性の確保を目指すこととします。

市民活動の支援

事業の工事中も、市民等の活動スペースの確保に努めサポートすることを検討しています。市民ワークショップや市民等が活動したいことの実現に向けて、整備内容への反映を念頭に、市民等と継続的な情報交換ができる仕組みを検討していきます。また、周辺企業の声を伺い、市民等の活動とも併せて活動しやすい空間や仕組みづくり（例：トライアルサウンディングなど）で行政が連携することを検討していきます。

裾野市内に拠点を持つ、竹林整備やコミュニティ醸成を行う団体と竹チップ活用を目指す連携や、地域で育まれている移動可能な植栽の技術、地域産業の1つである芝生の活用を検討していきます。

環境負荷低減を図る検討

未来の環境負荷の低減に寄与する「プラスチック含有再生木材（再生困難なプラスチックを活用）」を、柵の笠木、ベンチ、デッキ等の素材として採用することを検討しています。

また、地域で活躍する団体の竹林整備活動で発生した竹をチップ化し、舗装材料の素材として利用すること（竹チップ舗装）を検討しています。

市民とともに公共空間を彩るイルミネーション活動に際しては、太陽光発電等の再生可能エネルギーの活用を選択肢の1つとして検討していきます。



画像出典：特定非営利活動法人みらい建設部 Facebook

地元活動団体である特定非営利活動法人みらい建設部は 2018 年から荒廃竹林の整備を始め、整備の過程で発生するタケノコを用いた純国産メンマ作りや、枯竹から竹炭を作り遊休農地の土壌改良剤としてさつまいも栽培等に利用するなどの活動を行っています。



竹チップ舗装



プラスチック含有再生木材

画像提供：株式会社 LIXIL

5 デザインの考え方

〈デザイン対象物〉

(1) 舗装

- ・岩波駅から国道 246 号横断歩道橋まで一貫性のあるデザインとするため、舗装についても全体で統一を図る (A-1)
- ・岩波の風景に馴染むように、自然の骨材を活かした舗装とする (C-2)
- ・人やパーソナルモビリティなど多様な利用者に配慮する (E) (F-1)
- ・竹チップ舗装等、地元産の素材を使用する (F-3)

自転車道：半たわみ舗装

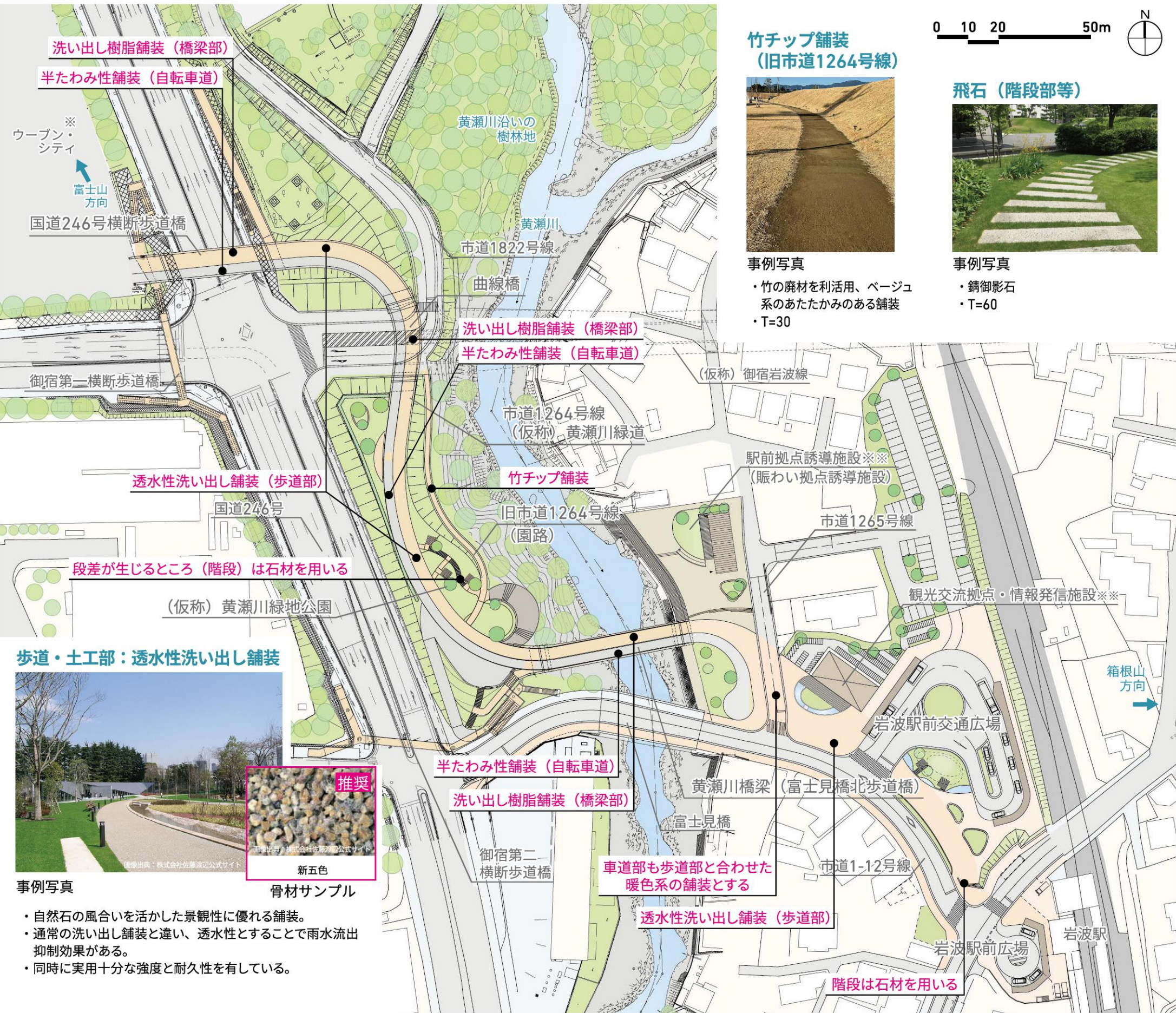


- 事例写真
- ・変形抵抗性に優れ、わだち掘れの発生を抑制でき、走行性に優れる。
 - ・グレーをベースとした舗装となるが、着色することも可能で景観性に優れる。

歩道・橋梁部：洗い出し樹脂舗装



- 事例写真
- 骨材サンプル
- ・骨材が選べるため、自然石の骨材による風合いが良く、景観性に優れる。
 - ・表面の舗装厚が薄いため、橋梁等の限られた条件でも使用が可能。
 - ・表面を拭き取る施工となり、汚水が発生せず施工性にも優れる。



歩道・土工部：透水性洗い出し舗装



- 事例写真
- 骨材サンプル
- ・自然石の風合いを活かした景観性に優れる舗装。
 - ・通常の洗い出し舗装と違い、透水性とすることで雨水流出抑制効果がある。
 - ・同時に実用十分な強度と耐久性を有している。

竹チップ舗装 (旧市道1264号線)



- 事例写真
- ・竹の廃材を利活用、ページュ系のあたたかみのある舗装
 - ・T=30

飛石 (階段部等)



- 事例写真
- ・錆御影石
 - ・T=60

※ウーブン・シティはトヨタ自動車 (株) が建設を進める実証実験の街であり、裾野市の整備計画に含まれていません。

※※「駅前拠点誘導施設 (賑わい拠点誘導施設)」「観光交流拠点・情報発信施設」については民間活力を活用した整備を検討します。

(2) 柵類

柵類は、以下の種類があります。

- ・横断防止柵
- ・車止め
- ・歩車分離標 (I 型、門型)
- ・高欄
- ・転落防止柵

共通 (歩車分離標を除く)

- ・スチール製とすることで部材を細くし、構造物の透過性を高める
- ・色彩はオフグレーで統一を図る

A-1 B-1 B-2 H-1

柵の方向について

- ・横断防止柵については、景観性及び安全性を考慮し、周辺の見通しを確保するため横柵型とします。
- ・高欄、転落防止柵については、子どもがよじ登りにくい縦柵型とします。

■高欄

- ・SP 種とし、橋梁部に設置します。
- ・ウーブン・シティ入口に近い国道 246 号横断歩道橋は、人々の滞留スペースとなることを想定し、高欄に裾隠しを設けます。裾隠しから手摺までの高さを 800mm 以上とすることで、裾隠しに足をかけても乗り越えにくい構造とします。

■転落防止柵

- ・P 種とし、橋梁以外の道路天端や公園敷地端部、デッキ部等に設置します。
- ・国道 246 号側と、公園川側の張出デッキの一部の転落防止柵は、橋梁部 SP 種の高欄と意匠を合わせるものとします。
- ・その他の転落防止柵については、主要動線を外れているため、特注ではなくシンプルな既製品の柵とします。

■歩車分離標

無彩色の既製品を選定 (横断防止柵・車止めのオフグレーにイメージを合わせる)



I 型



門型

ポリウレタン樹脂
H=800mm
φ=83mm
ベース φ=93mm

画像出典：保安道路企画株式会社
公式サイト (ポストフレックス)

特殊ウレタン樹脂
H=600mm
W=800mm (柱心間)
ベース φ=96mm

画像出典：積水樹脂株式会社
公式サイト (あいポラード)

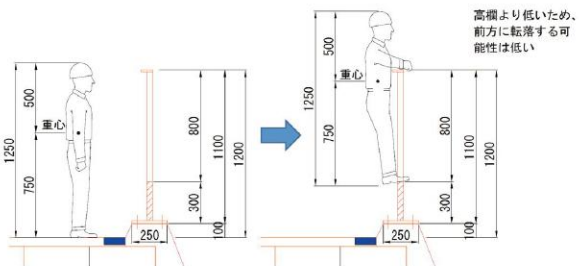
バルコニー乗り越え防止の基準ほか

出典：優良住宅部品質評価基準 墜落防止手すり P.8,9

■ユニット天端までの基準寸法 (抜粋)

種類	設置条件	ユニット天端までの高さ
バルコニー用	腰壁の高さ 300mm 以上 650mm 未満の場合	腰壁の上端から 800mm 以上

高欄と目線が同じ程度の児童を想定した場合、児童の重心は腰より少し高い位置のため、裾隠しに足を掛けて登ったとしても、高欄より重心が高くなることはない。そのため、前方へ転落する可能性は低い。



〈高欄と転落防止柵のデザインパターン〉

246 号横断橋、曲線橋、黄瀬川橋梁の高欄は、プラスチック再生木材を活用した笠木 (トップレール) を設けます。↗



① 裾隠し：あり
笠木：あり



② 裾隠し：なし
笠木：あり



③ 裾隠し：なし
笠木：あり
(立ち上げ)



④ 高欄と意匠を
合わせた特注品
(支柱タイプ)



⑤ シンプルな縦柵の既製品
鉄製、オフグレーの製品
とする

高欄のトップレール内にはライン照明を備えます。また、主要動線の転落防止柵のデザインを統一することで、連続性を演出します。

A-1 B-3 F-3 H-1



0 10 20 50m

数値は現時点の参考値であり、変更する場合があります。
デザイン図はイメージであり、詳細が異なる箇所があります。

※ウーブン・シティはトヨタ自動車 (株) が建設を進める実証実験の街であり、裾野市の整備計画に含まれていません。

※※「駅前拠点誘導施設 (賑わい拠点誘導施設)」「観光交流拠点・情報発信施設」については民間活力を活用した整備を検討します。

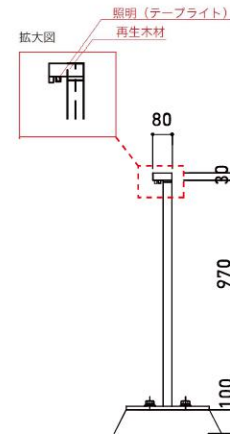
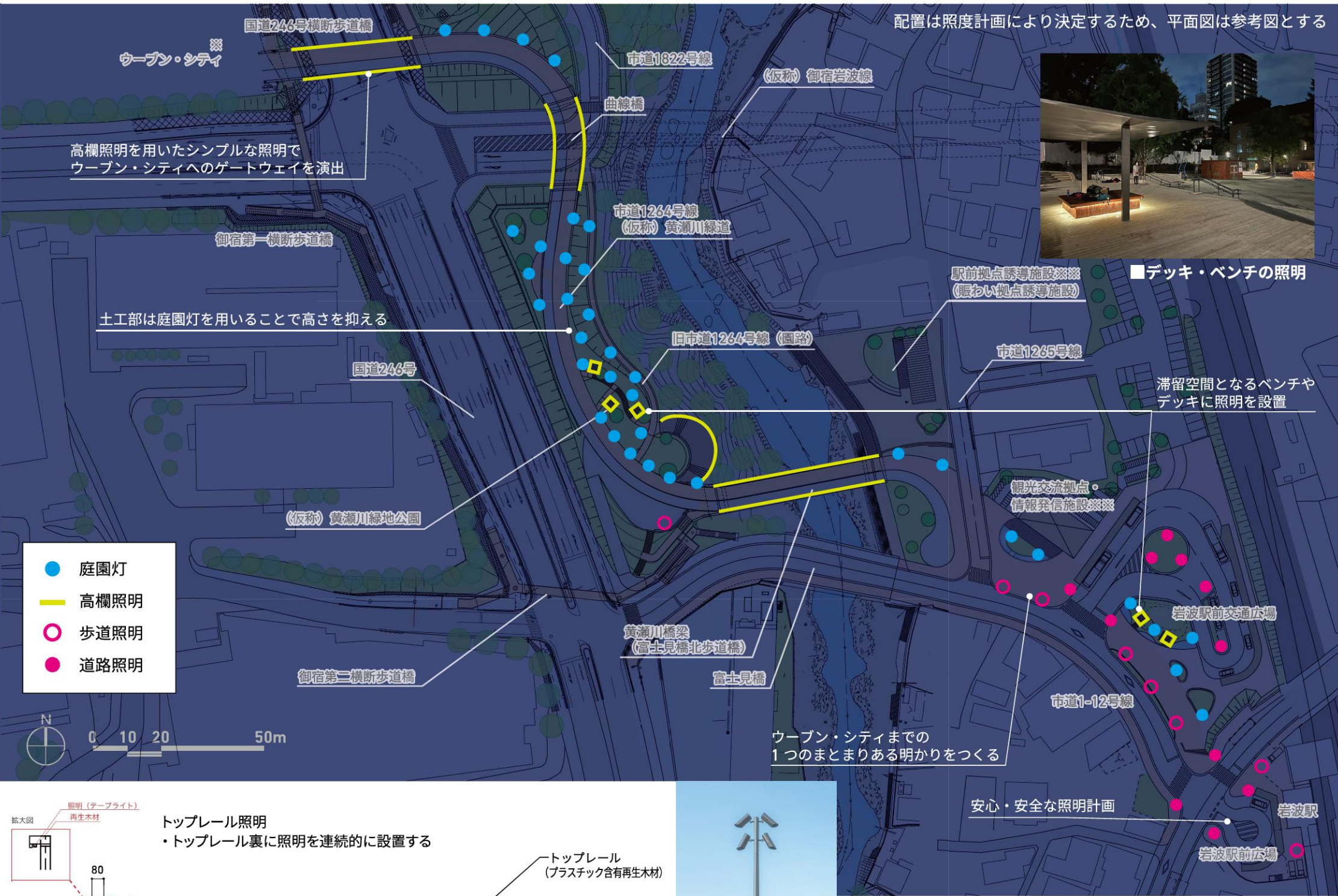
(3) 照明

- ・岩波駅とウーブン・シティを結ぶ主要動線を統一感のある明かりで繋ぐ **A-1**
- ・照明器具の色彩（オフグレー）を統一する **A-1**
- ・富士山への眺望を尊重し、構造物そのものが主張しないシンプルなデザインとする **B**
- ・極力高い照明柱を立てずに高欄照明やベンチ照明、庭園灯等の背の低い照明で昼間、夜間ともに景観に配慮した照明計画とする **B-1**
- ・駅前広場のポール照明は、良好な景観の妨げにならないよう、視点場からの眺望に配慮し設置位置を調整する **B-3**
- ・人の滞留スペースにはあかりの溜まりをつくる **E-1**
- ・暖色系（3000K 程度）を用いることで温かみのある明かりとする **E-1**
- ・LED を採用し維持管理性を考慮する **H-1**

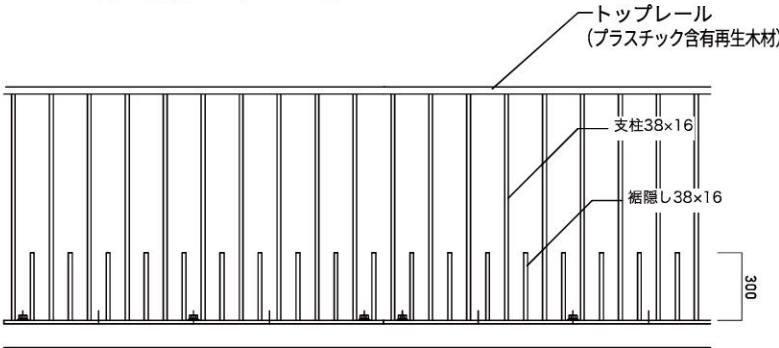
橋梁（道路）：平均照度 5lx 以上
公園：平均照度 3lx 以上

オフグレー
5Y7.0/0.5

■高欄照明（橋梁部）



トップレール照明
・トップレール裏に照明を連続的に設置する



図中の数値は現時点の参考値であり、変更する場合があります。



■歩道照明

高さ：3.5m
径：φ139.8mm

■道路照明

高さ：8m
径：φ139.8mm
（明かり：3000～4000Kを想定）



■庭園灯

高さ：850mm
径：φ43.0mm



※ウーブン・シティはトヨタ自動車（株）が建設を進める実証実験の街であり、裾野市の整備計画に含まれていません。

※※「駅前拠点誘導施設（賑わい拠点誘導施設）」「観光交流拠点・情報発信施設」については民間活力を活用した整備を検討します。

(4) 植栽

- ・ 駅前から公園まで樹種に一貫性のある植栽計画とする **(A-1)**
- ・ 視点場からの眺望に配慮した樹木の配置とする **(B-1)**
- ・ 人の交流や休憩の場所となるところには、木陰となるような樹木を配置する **(E-1)**
- ・ 近隣樹林地の植生や土壌にあった樹種を選定する **(C)**
- ・ 地元技術である FSG（軽量薄層緑化）等を活用する **(F-3)**
- ・ 軽量で維持管理に優れた植栽の活用を検討する **(F-3)**
- ・ 活用にあたり、地域産業や市民参加の取組みとの連携を考慮する **(F-2)**
- ・ 維持管理しやすさを考慮した樹種の選定・配置とする **(H-1) (H-2)**

■高木植栽

イタヤカエデ



イロハモミジ



ウラジロガシ



マメザクラ・オカメザクラ



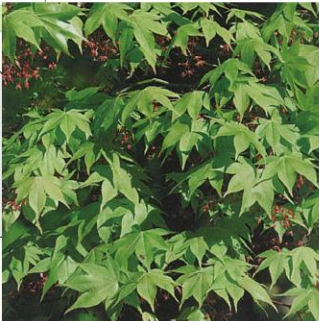
ケヤキ



ハナミズキ



オオモミジ



ジャノメマツ



①黄瀬川

三島溶岩流を浸食する黄瀬川の両岸には、ケヤキやモミジ類の森が連なっている。川沿いの急斜面に自生するような樹種を選定した。

→ケヤキ、イロハモミジ、オオモミジ、ウラジロガシ、アジサイ、ユキヤナギ、ドウダンツツジ

②富士山麓

富士山の周辺に堆積した溶岩等の火山堆積物の上には、人の手入れも相まって他の地域とは異なる独特な植生が成立している。マメザクラをはじめ、富士山周辺に多い樹種を選定した。

→サクラ（マメザクラ・オカメザクラ）、イタヤカエデ、ハナミズキ（ヤマボウシのイメージ）、ジャノメマツ、シャクナゲ

■低木植栽

ノシバ



アジサイ



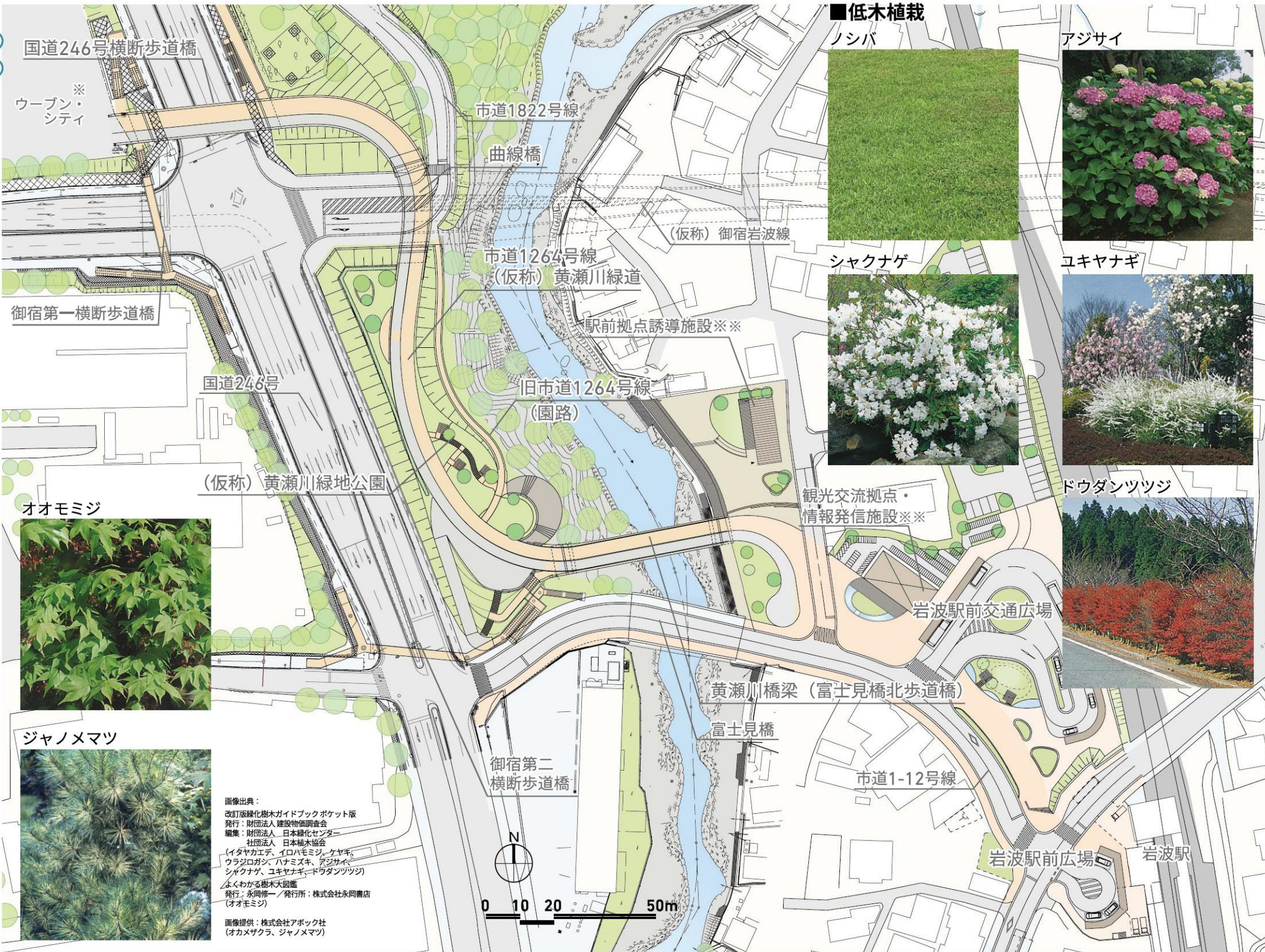
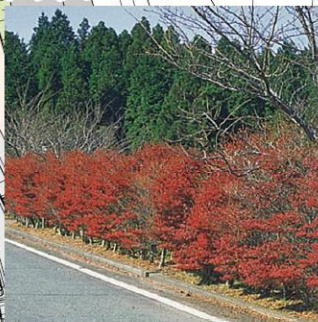
シャクナゲ



ユキヤナギ



ドウダンツツジ



画像出典：
改訂版緑化樹木ガイドブックポケット版
発行：財団法人建設物産協会
編集：財団法人 日本緑化センター
社団法人 日本樹木協会
（イタヤカエデ、イロハモミジ、ケヤキ、
ウラジロガシ、ハナミズキ、アジサイ、
シャクナゲ、ユキヤナギ、ドウダンツツジ）
よくわかる樹木大図鑑
発行：永岡書店／発行所：株式会社永岡書店
（オオモミジ）
画像提供：株式会社アポック社
（オカメザクラ、ジャノメマツ）

※ウーブン・シティはトヨタ自動車（株）が建設を進める実証実験の街であり、裾野市の整備計画に含まれていません。

※※「駅前拠点誘導施設（賑わい拠点誘導施設）」「観光交流拠点・情報発信施設」については民間活力を活用した整備を検討します。

05 個別デザインの考え方 / デザイン対象物（全体）

(5) サイン・路面標示

- ・サイン筐体はサインのサイズに関わらず統一性を持たせ、周囲の景観に溶け込むようシンプルでスレンダーな形状とする

B

D
- ・サイン筐体・支柱の色彩（オフグレー）を統一する

A-1
- ・表示内容はだれもが判別しやすい大きさ、色とする

E
- ・市民活動やイベントを周知するための案内・短期的な情報は集約して掲示する

B

F-2
- ・内容や機能に応じてデジタルサイネージ等を検討する

H-1

H-2
- ・安全、安心な移動のため、適切な位置と機能を確保したサインを設置する

B

F-1
- ・海外からの来訪を想定し、多言語の表記とする

E

■代表的なサインの種類

サインの種類	サインイメージ	詳細
総合サイン		- エリア全体マップ、各種情報を記載 - 地域資源の案内や、公共交通の利用案内等を記載 - 駅前広場や滞留スペースに配置
施設サイン		- 本事業のこだわり等を表示 - 施設名称及び施設説明、利用案内を記載 - 各施設の入口付近に配置
誘導サイン		- 適切な誘導を促す誘導表示 - エリア内の分岐点等に配置

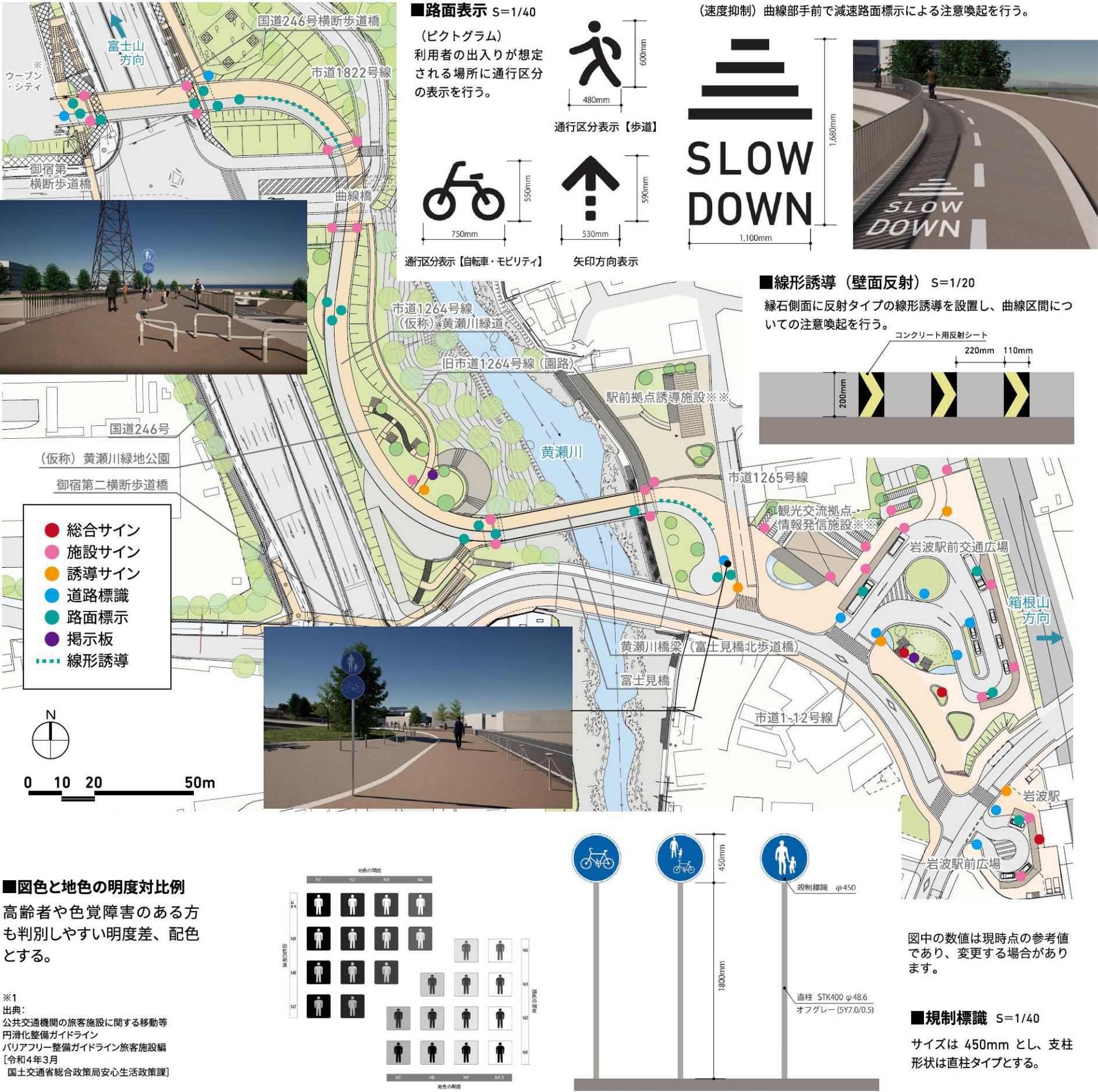
■視距離に応じた文字の大きさの目安

視距離に応じた最低文字寸法を設定する。
総合サイン及び施設サインの見出し、誘導サインの和文は、設置位置を考慮し、視距離を10m程度に設定する。

※1

視距離	和文文字高	英文文字高
30 m の場合	120 mm 以上	90 mm 以上
20 m の場合	80 mm 以上	60 mm 以上
10 m の場合	40 mm 以上	30 mm 以上
4 ～ 5 m の場合	20 mm 以上	15 mm 以上
1 ～ 2 m の場合	9 mm 以上	7 mm 以上

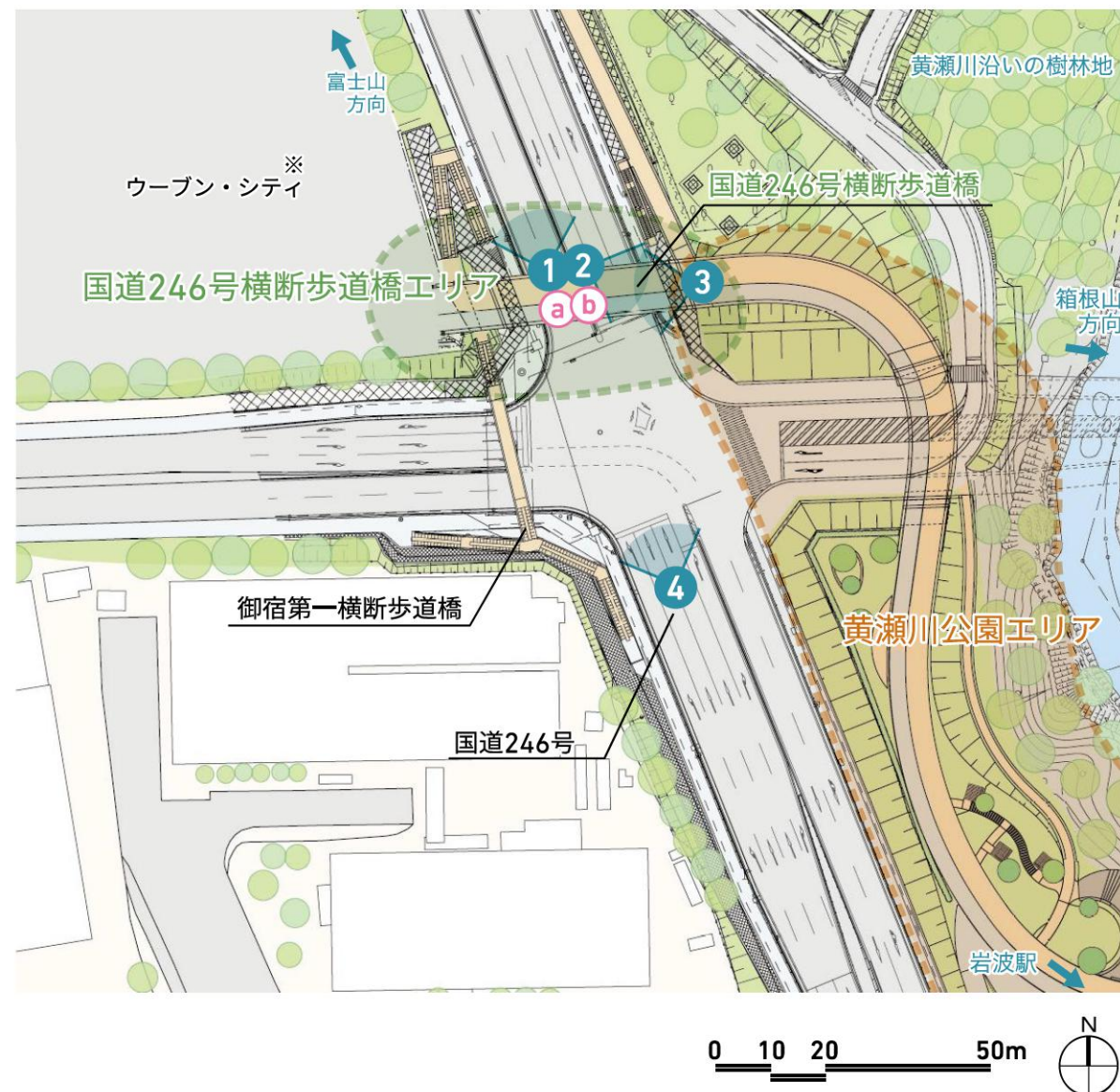
※ウーブン・シティはトヨタ自動車（株）が建設を進める実証実験の街であり、裾野市の整備計画に含まれていません。



図中の数値は現時点の参考値であり、変更する場合があります。

■規制標識 S=1/40
サイズは 450mm とし、支柱形状は直柱タイプとする。

（1）国道 246 号横断歩道橋エリア



エリア資源



富士山



箱根山

国道 246 号横断歩道橋エリアの 主要視点場と求められる条件

① 橋の上から富士山方向（ウーブン・シティ）

橋の上から富士山方向（ウーブン・シティ）を眺めるにあたり、橋上の構造物が主張せず、眺望を妨げないことが重要です。

② 橋の上から黄瀬川公園エリア、箱根山方向

橋の上から黄瀬川公園エリア、箱根山方向を眺めるにあっても、同様に橋上の構造物が主張せず、眺望を妨げないことが重要です。

③ 橋の東側から橋軸方向

ウーブン・シティに向かうにあたり、ゲートウェイとしての役割や設えが求められます。また、ウーブン・シティの入口と同時に眺められるため、ウーブン・シティとの親和性が求められます。

④ 国道 246 号を走行する車両から橋方向

国道 246 号を利用する車両からの眺めに配慮し、周辺景観と調和する形状、色彩が求められます。

国道 246 号横断歩道橋エリアの 主な活動イメージ

a 富士山、黄瀬川公園エリア、 箱根山方向を眺める

橋を利用する人が、橋の上から富士山方向（ウーブン・シティ）や箱根山、岩波駅方向をゆっくり眺めることが想定されます。

b 交流や休憩

橋を利用する人が交流したり、移動中に休憩したりすることが想定されます。



05 デザインの考え方 / デザイン対象物（エリア毎）

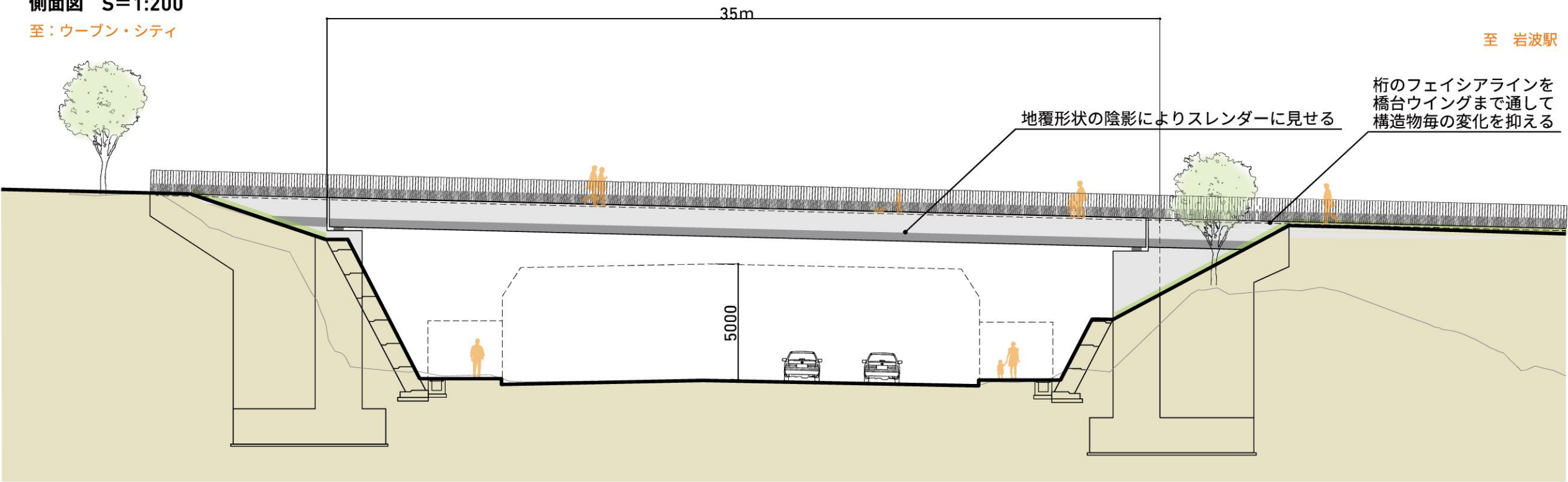
(1) 国道 246 号横断歩道橋エリア

個別デザインの考え方

- ・周辺景観との調和を図るため、近接する国道 246 号横断歩道橋と曲線橋の形状は、変化を抑え構造物としての主張を軽減する **D**
- ・構造物の最小化を目指し、シンプルでスレンダーな側面形状とし、フェイスラインや橋台のウイング形状に配慮する **D-1**
- ・箱根山方向への眺望を妨げない工夫として、高欄は透過性の高いデザインとする **B-1 B-2**
- ・座れる場所を設け、交流が生まれるようなスペースをつくる **E-1**
- ・ベンチの座面には環境負荷低減に配慮された廃プラスチックが含有された素材を使用する **F-3**
- ・岩波駅～ウーブン・シティ間の景観形成のため、舗装や高欄等は統一的な意匠を用いる **A-1**

側面図 S=1:200

至：ウーブン・シティ

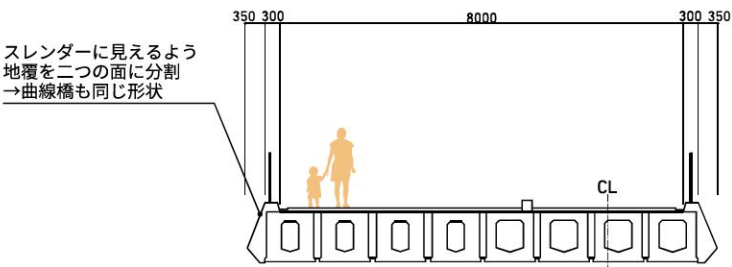


至 岩波駅

桁のフェイスラインを橋台ウイングまで通して構造物毎の変化を抑える

地覆形状の陰影によりスレンダーに見せる

桁断面図 S=1:150

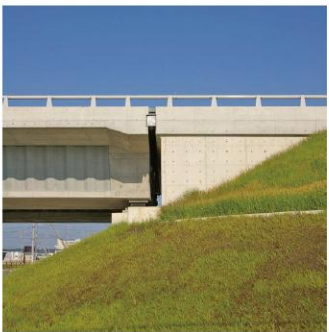
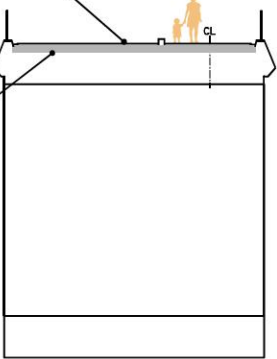


スレンダーに見えるよう
地覆を二つの面に分割
→曲線橋も同じ形状

橋台 正面図 S=1:250

伸縮装置は、路面に打ち出しコンクリートが露出しないよう工夫

伸縮装置を路面のみとし、地覆部分に存在感を出さないように配慮する



ウイングのイメージ
(伸縮装置の打ち下ろしは無し)

→P20-21 照明を参照

ウーブン・シティ※との親和性 **G**

- ・ウーブン・シティの個性的な建築や外構との親和性を考慮したシンプルな形状、主張しない構造・デザイン
- ・高欄照明を用いたシンプルなライトアップにより、ゲートウェイを演出

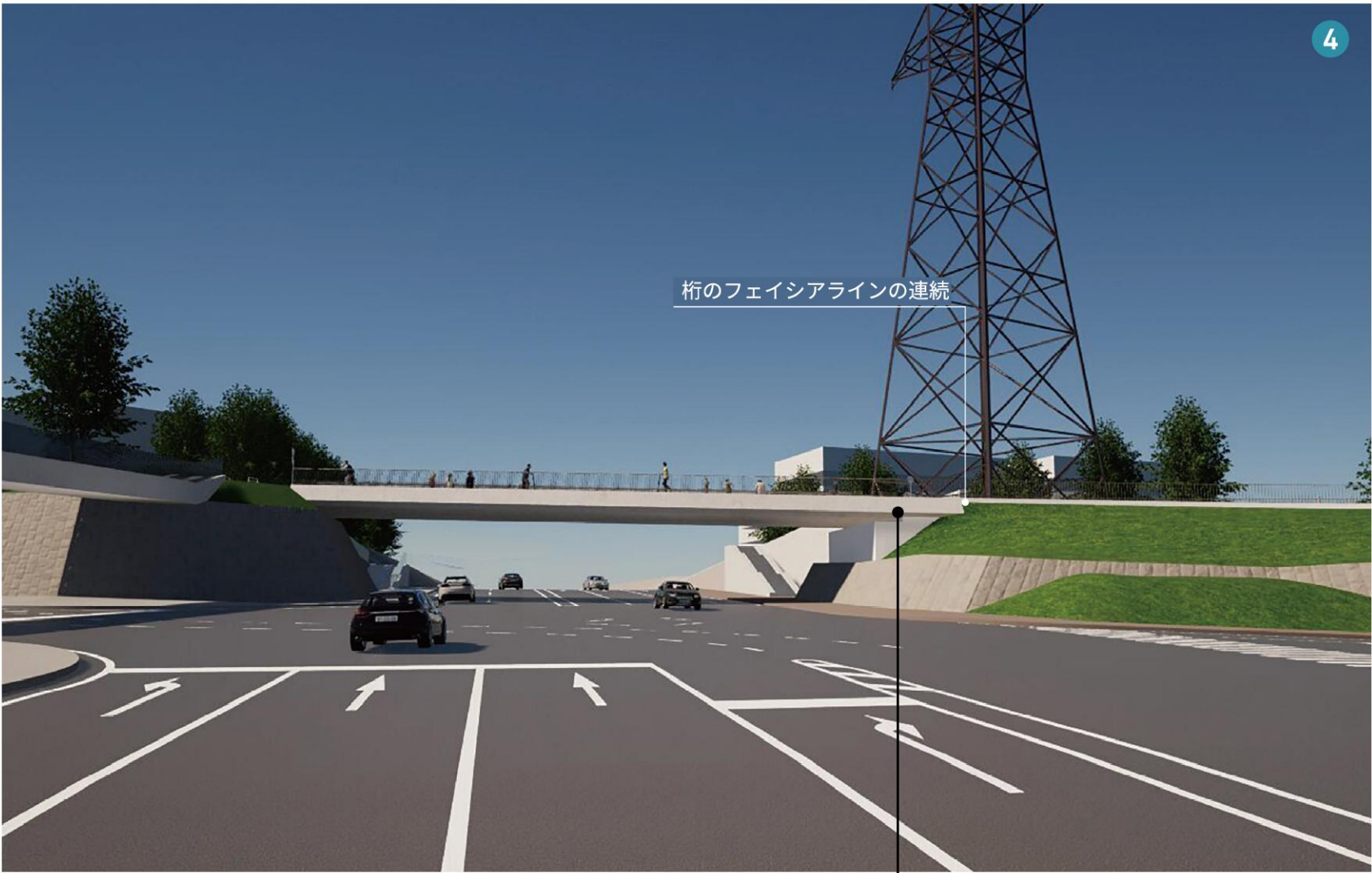


公表イメージ
画像提供：TOYOTA WOVEN CITY 公式サイトより

※ウーブン・シティはトヨタ自動車（株）が建設を進める実証実験の街であり、裾野市の整備計画には含まれていません。

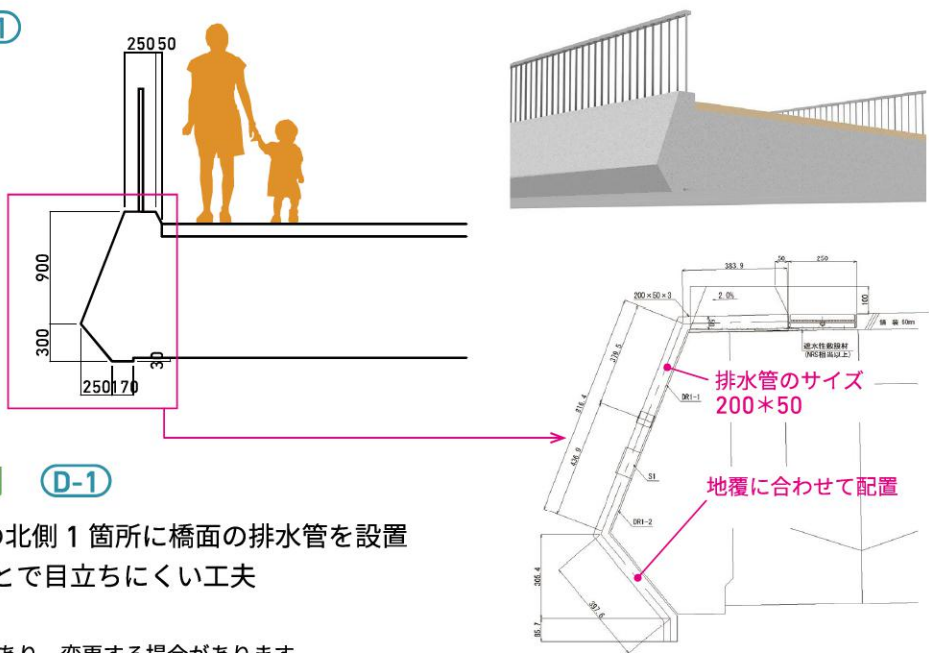
図中の数値は現時点の参考値であり、変更する場合があります。

国道246号横断歩道橋 橋梁デザイン



上部工断面形状 (D-1)

- ・地覆を 3：1 に分割することで、光の陰影により実際よりも桁高を低く見せる工夫
- ・シンプルでスレンダーな側面形状を実現



排水管：A2橋台北側 (D-1)

- ・A2 橋台（岩波駅側）の北側 1 箇所に橋面の排水管を設置
- ・地覆形状に合わせることで目立ちにくい工夫

図中の数値は現時点の参考値であり、変更する場合があります。

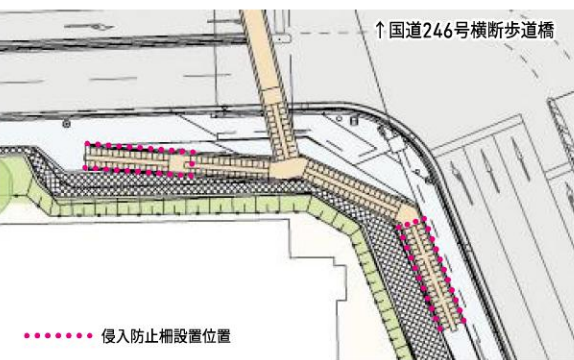
擁壁：大型ブロック (D)

- ・耐震性に優れ、折れ角部に現場打ちコンクリートを用いずに施工でき、景観的に統一することができる工法を採用する
- ・低明度でテクスチャーがあるため、時間とともに周辺景観に馴染む



事例写真

階段下侵入防止柵（御宿第一横断歩道橋）



- ・御宿第一横断歩道橋の階段下侵入防止柵は、ダークブラウンとすることで存在感を消し、階段のみが構造物として際立つようにする

ダークブラウン 10YR2.0/1.0 →P18-19 柵類を参照

国道246号横断歩道橋 橋面デザイン

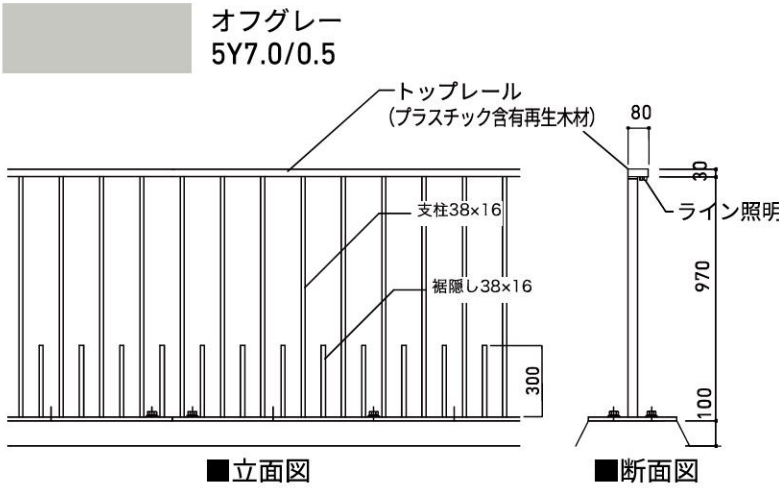


■夜景のイメージ

→P12-13 色彩、P18-19 柵類、P20-21 照明を参照

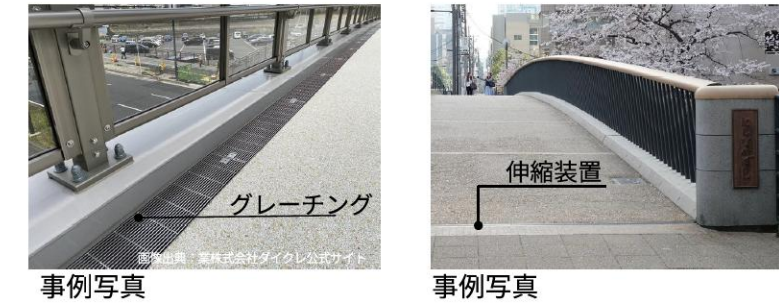
高欄：SP種

- ・プラスチック再生木材の活用による環境配慮 (F-3)
- ・鉄を用いたシンプルで透過性の高いデザイン (B-1) (B-2)
- ・高欄トップレールに照明を設置 (B-3)
- ・高欄塗装色は、ふじのくに色彩・デザイン指針などを踏まえ、自然地で空の比率が大きいことから、オフグレーとする (A-1)



橋面排水：鋼製排水溝 伸縮装置 D

- ・歩道側に設置されるため、歩道用のグレーチングタイプとする
- ・伸縮装置は、打ち放しコンクリートが露出しないよう工夫



図中の数値は現時点の参考値であり、変更する場合があります。

→P16-17 舗装を参照

自転車道：半たわみ性舗装 (A-1) (F-1)

- ・アスファルト混合物にセメントミルクを浸透させた舗装
- ・走行性に優れるとともにグレーの色味が周辺景観と調和する



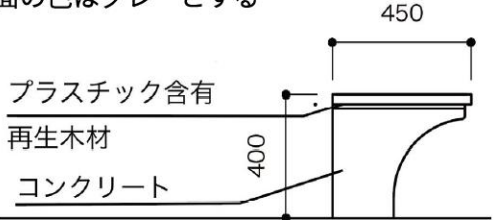
事例写真

画像出典：株式会社佐藤造園公式サイト

→P14 未来技術を参照

歩道境界部：プラスチック含有再生木材 (E-1) (F-3)

- ・座れる場所を設ける
- ・座面には廃プラスチックが含有されている環境負荷軽減に配慮した素材を使用
- ・座面の色はグレーとする



事例写真

座面カラー

→P16-17 舗装を参照

歩道部：洗い出し樹脂舗装 (A-1) (C-2)

- ・コンクリートやモルタルを下地として表面を洗い出した樹脂系の舗装
- ・骨材が選べるため、自然石の骨材による風合いが良く、景観性に優れる



事例写真



推奨色

TX-668

05 デザインの考え方 / デザイン対象物（エリア毎）
(2) 黄瀬川公園エリア



※ウーブン・シティはトヨタ自動車（株）が建設を進める実証実験の街であり、裾野市の整備計画に含まれていません。
※※「駅前拠点誘導施設（賑わい拠点誘導施設）」「観光交流拠点・情報発信施設」については民間活力を活用した整備を検討します。

黄瀬川公園エリアの主要視点場と求められる条件

- 5 曲線橋手前から富士山方向
富士山方向を眺めるにあたり、眺望を妨げないことが重要です。弧を描く道路景観をすっきりと見せることが求められます。
- 6 国道 246 号の車両から曲線橋方向
国道 246 号を利用する車両からの眺めに配慮し、周辺景観と調和する形状、色彩と、その統一性・連続性が重要です。
- 7 緑道中央から富士山方向
富士山方向を眺めるにあたり眺望を妨げないこと、歩行者の休憩時の安全性と快適さへの配慮が必要です。
- 8 旧市道の園路から富士山方向
富士山方向を眺めるにあたり眺望を妨げないこと、巡り場として周辺樹林地と調和した空間づくり、歩きやすさが求められます。
- 9 黄瀬川公園デッキから富士山方向
富士山方向を眺めるにあたり眺望を妨げないこと、人々の滞留空間となるよう、座り場としての快適さへの配慮が必要です。
- 10 黄瀬川公園張り出しデッキから対岸方向
黄瀬川や対岸の賑わい施設や橋梁、駅や箱根山への眺望を妨げないこと、人々の滞留空間となるよう、細部の設えにも配慮することが重要です。
- 11 御宿第二横断歩道橋から黄瀬川公園方向
公園方向を眺めるにあたり、公園の南北に接している道路側の法面景観への配慮が必要です。

黄瀬川公園エリアの主な活動イメージ

- a 富士山方向を眺める
公園を利用する人が、富士山を眺めながら通行したり、デッキ等からゆっくり眺望を楽しんだりすることが想定されます。
- b 会話や休憩等の交流
公園を利用する人が、張り出しデッキやスクエアデッキ等で眺めや会話などを楽しんだり、移動中にベンチで休憩したりすることが想定されます。



05 デザインの考え方 / デザイン対象物（エリア毎）

(2) 黄瀬川公園エリア

個別デザインの考え方

- ・曲線橋は国道 246 号横断歩道橋と同時に眺められるため、国道 246 号横断歩道橋と統一した側面形状（地覆と高欄）とし、周囲の眺望を妨げないよう、シンプルでスレンダーな構造形式とする (D-1)
- ・富士山への眺望を妨げない工夫として、柵類は透過性の高いデザインとする (B-1) (B-2)
- ・歩車道境界部に休憩できる縁石ベンチを設置し、公園内には滞留スペース（デッキ・ベンチ）を設ける (E-1)
- ・デッキやベンチの座面には、廃プラスチックが含有された環境負荷低減に配慮した素材を使用する (F-3)
- ・岩波駅～ウーブン・シティ間の景観形成のため、舗装や高欄等は統一的な意匠とする (A-1)
- ・付属物、ファニチャー類の形状や素材及び色彩（オフグレー）を統一する (A-1)

曲線橋 橋梁デザイン/橋面デザイン



ウーブン・シティからフェイスラインをとす

上部工断面形状／地覆形状 (D-1)

- ・国道246号横断歩道橋と同様の考え方で、形状を統一する (P30-31参照)

橋面排水：鋼製排水溝／伸縮装置 (D)

- ・国道246号横断歩道橋と同様の考え方で、形状を統一する (P33 参照)

→P18-19 柵類を参照

高欄：SP種 (→P38-39に詳細)

- ・国道246号横断歩道橋 (P33参照) のデザインを踏襲するが、裾隠しは付けない
- ・曲線状の割付に配慮する

歩車道境界部縁石

- ・曲線橋の区間は標準の縁石とする



図中の数値は現時点の参考値であり、変更する場合があります。

→P16-17 舗装を参照

歩道部：洗い出し樹脂舗装 (A-1) (C-2)

自転車道：半たわみ性舗装 (A-1) (F-1)

- ・国道246号横断歩道橋と同様の考え方で統一する (P32-33参照)

曲線橋 橋面デザイン



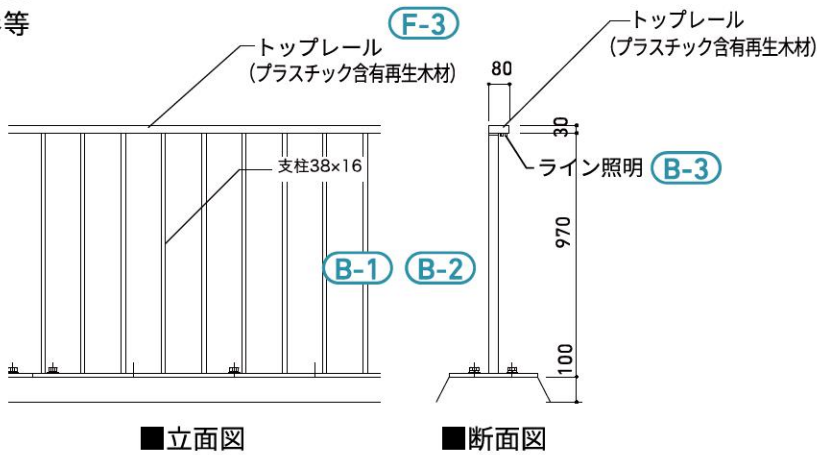
■夜景イメージ



→P12-13 色彩、P18-19 柵類、P20-21 照明を参照

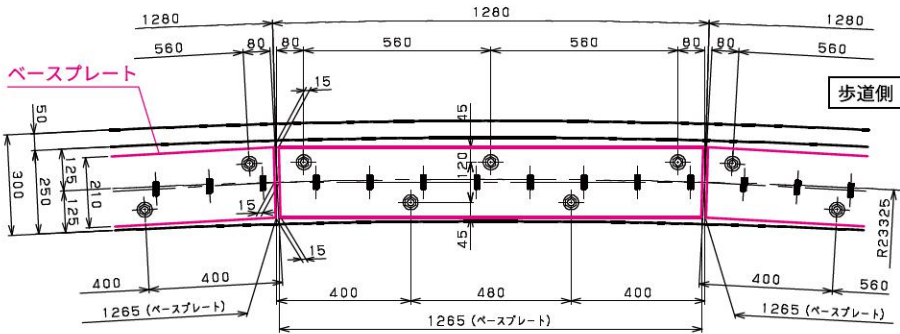
高欄：SP種

- ・国道 246 号横断歩道橋からの連続性を確保するため、形状及び素材や色彩等のデザインを統一する (A-1) (P33 参照)
- ・当該区間については滞留スペースとしないため、裾隠しを不要とする



曲線部の高欄の割付について

- ・市道 1264 号線の線形は、一部クロソイド曲線が採用されている
- ・曲線橋の高欄のベースプレートの隙間が、曲線の外側で開いて目立ってしまうことを防ぐため、ベースプレートは台形状とする



- ・トップレールの再生木材 (笠木) については、ベースプレート (1280mm ピッチ) の更に半分の長さ (640mm ピッチ) とすることで、なるべく曲線に見えるような配慮を行う

図中の数値は現時点の参考値であり、変更する場合があります。

→P12-13 色彩、P14 未来技術を参照



→P18-19 柵類を参照

→P16-17 舗装を参照

歩車分離標

- ・高欄や車止め等、他の柵類がオフグレーであることから、イメージを合わせて無彩色を選定する

(A-1) (F-1)



■ I 型

- ・ポリウレタン樹脂
- ・H800、φ83
- ・ベースφ93

画像出典：保安道路企画株式会社
公式サイト（ポストフレックス）



画像出典：積水樹脂株式会社
公式サイト（あいポロード）

■ 門型

- ・特殊ウレタン樹脂
- ・H600、W800（柱心間）
- ・ベースφ96

歩道・土工部：透水性洗い出し舗装

- ・自然石の骨材を使用し、路面を洗い出した舗装であり、自然石の風合いを活かした景観性に優れる舗装

(A-1) (C-2)

- ・通常の洗い出し舗装と違い、透水性とすることで雨水流出抑制効果がある

(F-3)



事例写真



推奨色
新五色
骨材サンプル

自転車道：半たわみ舗装 (P32参照)

(A-1) (F-1)

御宿第二横断歩道橋付替部、スロープ

- ・国道 246 号、市道 1-12 号線に面する南側斜面は、擁壁構造を避け法面とする

(D-2)

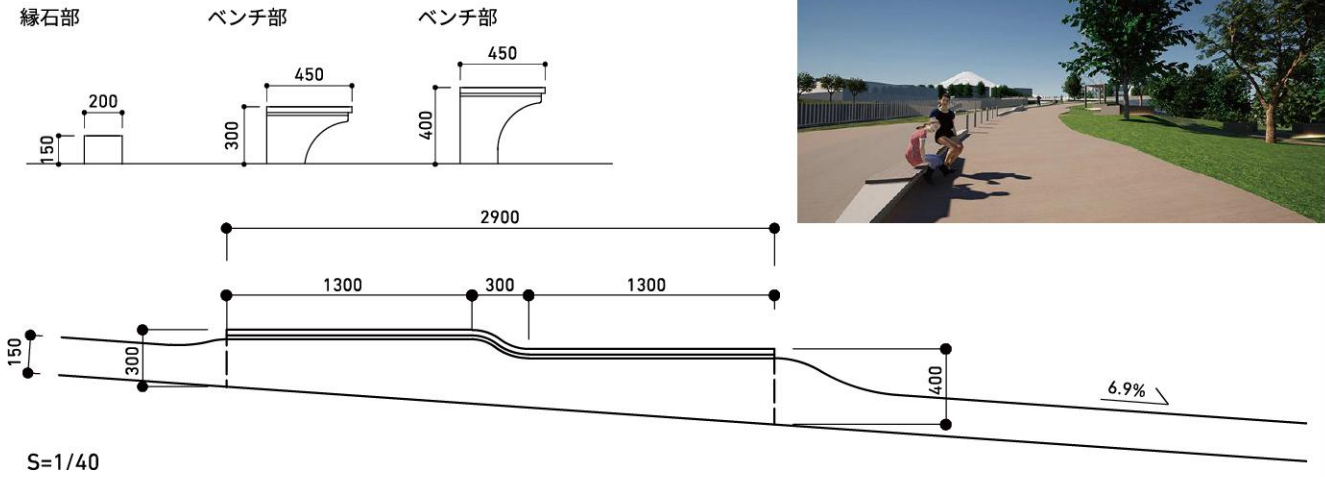
歩車道境界縁石（ベンチ部）

- ・登り勾配となるため、歩行者の休憩用ベンチを設置する
- ・ベンチ部の座面はグレーとする



座面カラー

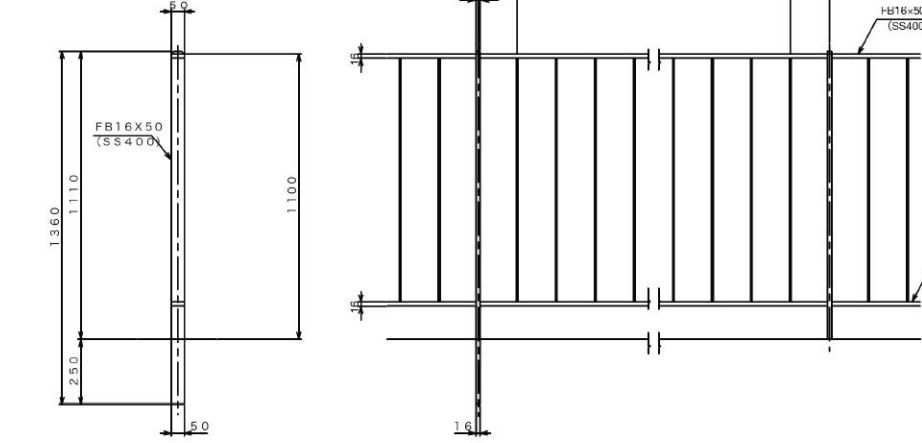
■ 断面図



7

→P18-19 柵類を参照

転落防止柵



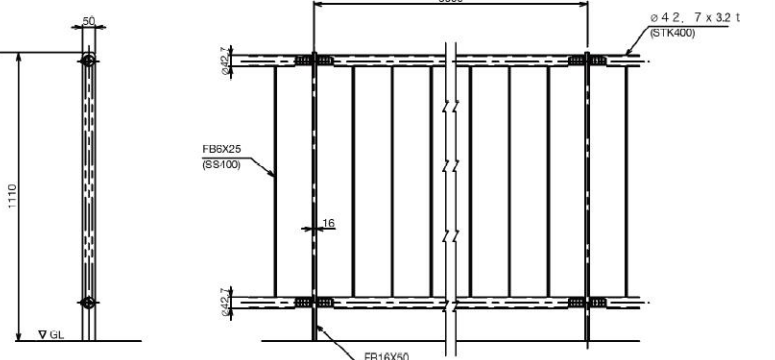
オフグレー
5Y7.0/0.5

■ メイン動線を除く個所の転落防止柵（P種）

設置箇所：黄瀬川沿いの園路斜面

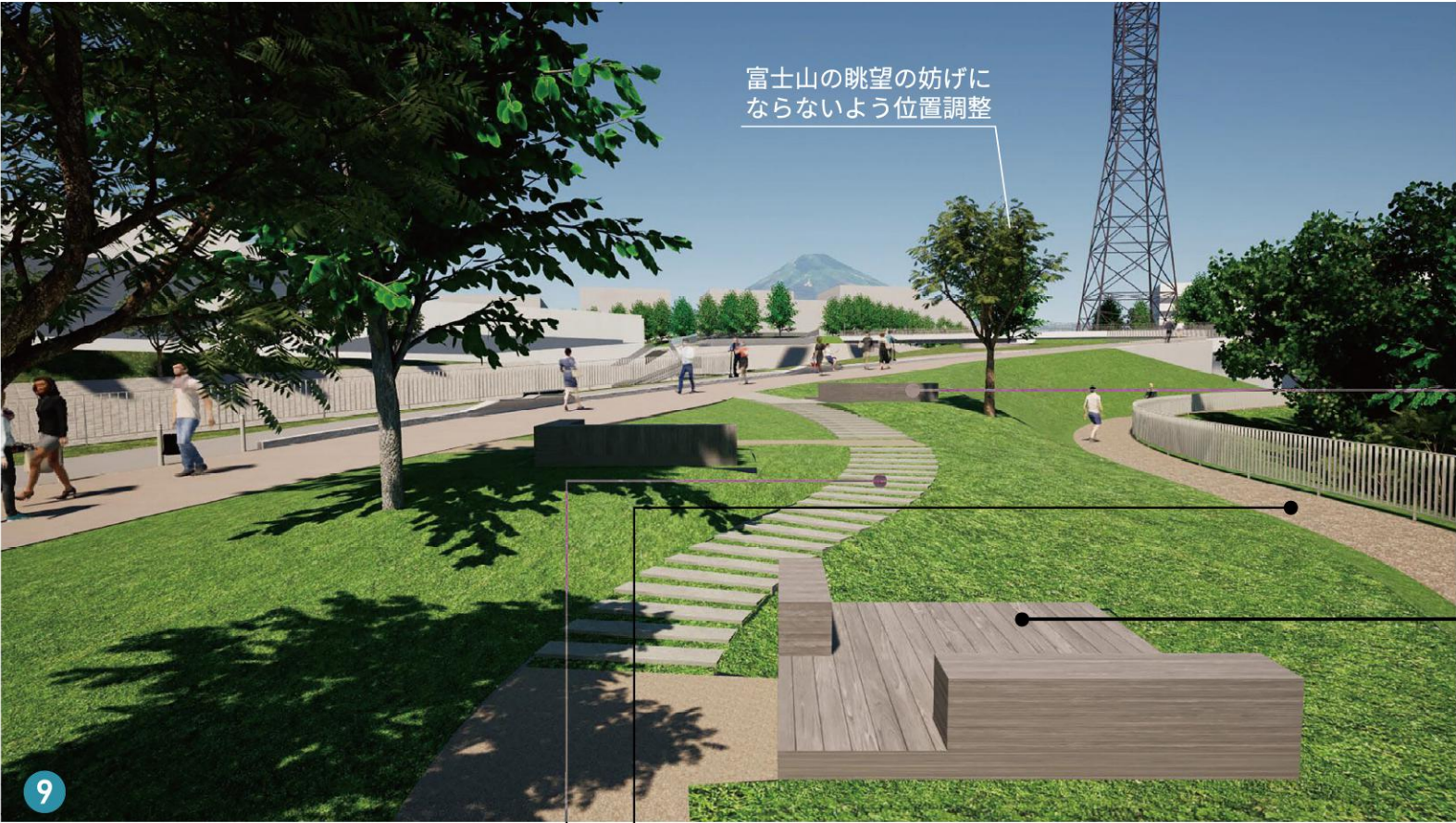
- ・車道側は高欄（SP 種）のデザインに合わせた P 種柵とし、黄瀬川沿いの園路についてはメイン動線から外れるため、シンプルな既製品の P 種柵とする
- ・鉄を用い、シンプルで透過性の高いデザインとする
- ・色彩はオフグレーで統一を図る

(A-1) (B-1) (B-2) (H-1) (H-2)



図中の数値は現時点の参考値であり、変更する場合があります。

→P12-13 色彩、P14 未来技術を参照



→P16-17 舗装を参照

飛石（階段部等） C-2

- ・ 錆御影石
- ・ 自然石の風合いのある舗装とする
- ・ T60



事例写真

→P16-17 舗装、P14 未来技術を参照

竹チップ舗装（旧市道1264号線） C-2 F-2 F-3

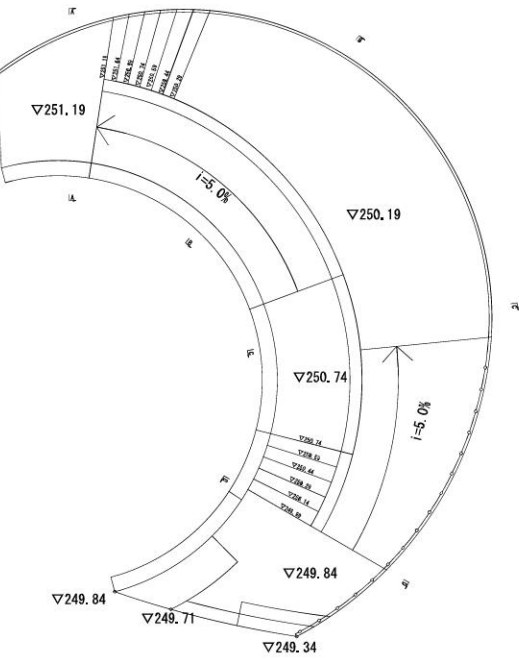
- ・ 竹の廃材を有効活用する
- ・ ベージュ系のあたたかみのある舗装とする
- ・ T30



事例写真

張り出しデッキ（ベンチ・デッキと共通）

- ・ ベンチ・デッキと素材、意匠の統一を図る A-1
- ・ バリアフリーに配慮した動線・構造とする E-1
- ・ 維持管理性に配慮する H-1 H-2
- ・ メイン動線の転落防止柵と同じとする (P41 参照)



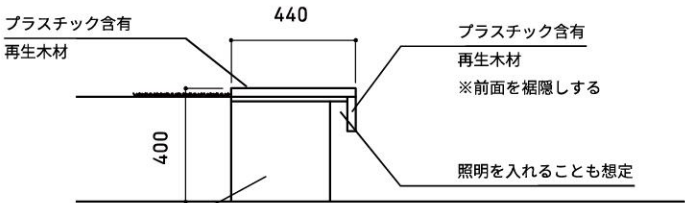
ベンチ・デッキ（共通）



事例写真

座面カラー

ベンチ

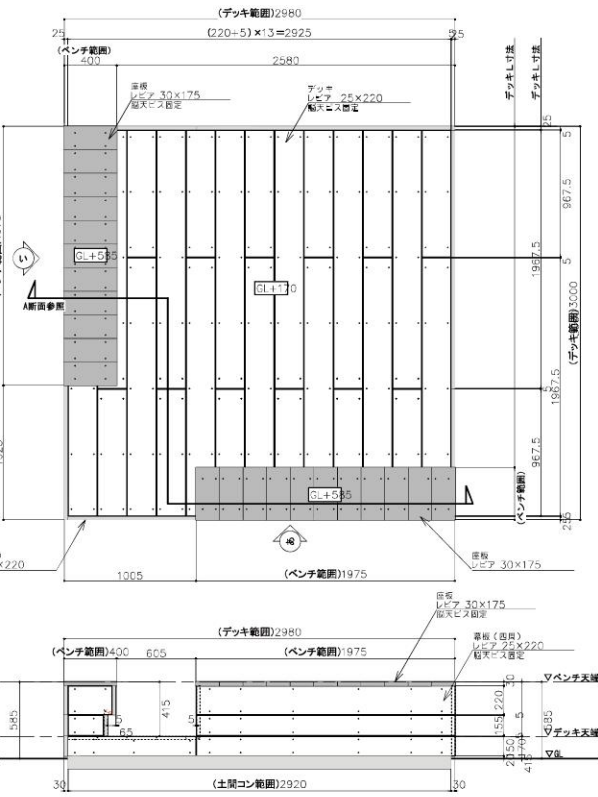
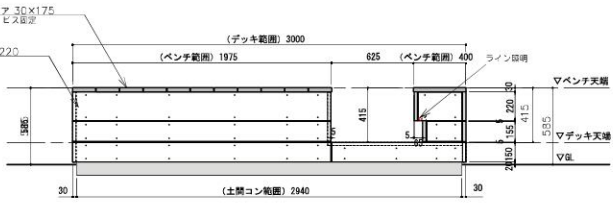


※溶岩の発生材がある場合はふとんかご（角形じゃこ）も検討する

S=1/15

デッキ

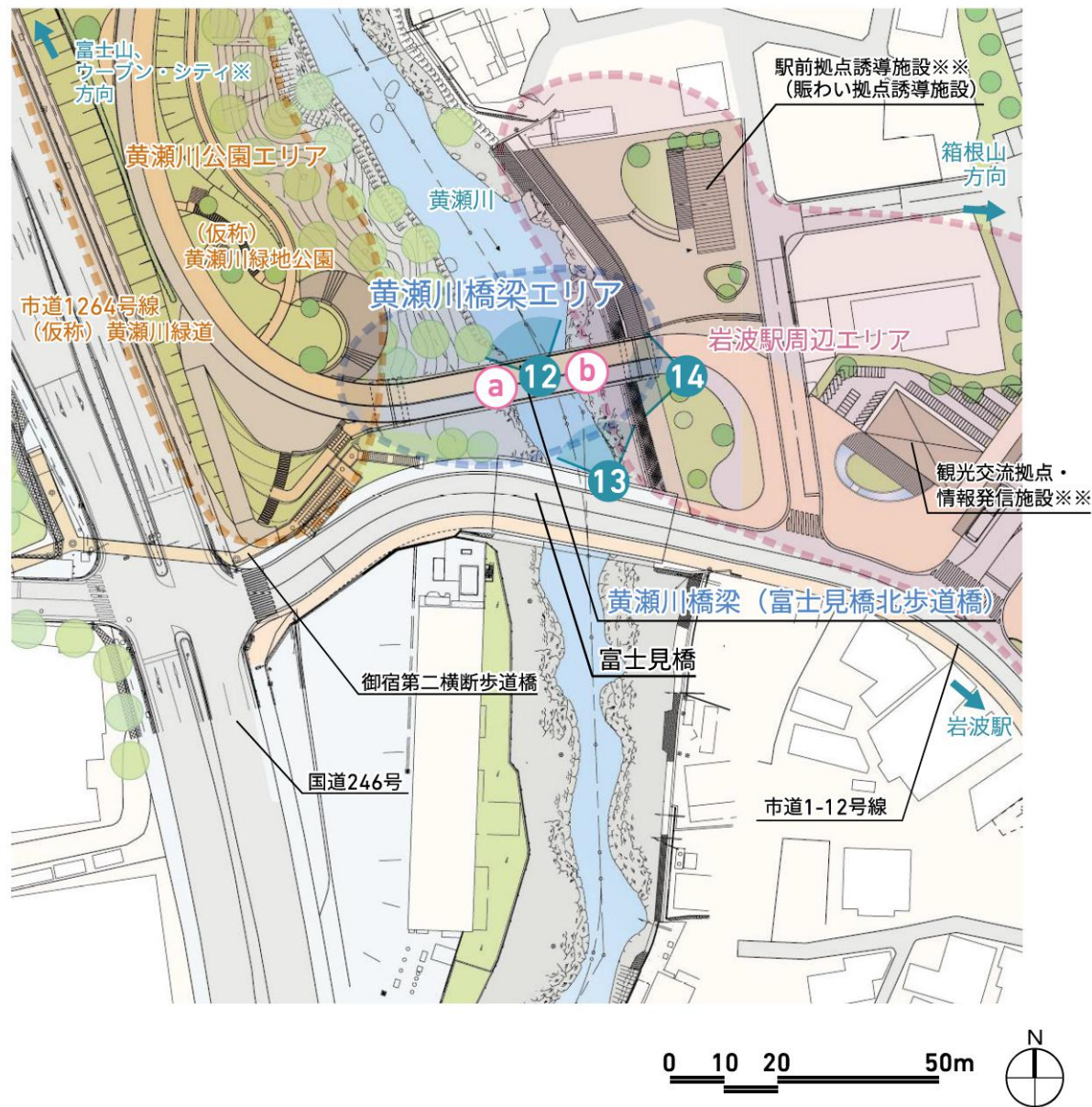
- ・ 構造物そのものが主張しないシンプルなデザインとする D-1
- ・ 手触りがよく、夏に熱くなく冬に冷たくなならない素材を使う E-1
- ・ 未来技術（環境配慮）の素材を検討する F-3
- ・ 維持管理性に配慮する H-1 H-2
- ・ 張り出しデッキや、緑道に設置される境界緑石ベンチ座面等の素材、意匠の統一を図る A-1



図中の数値は現時点の参考値であり、変更する場合があります。

05 デザインの考え方 / デザイン対象物（エリア毎）

(3) 黄瀬川橋梁エリア



エリア資源



富士山



黄瀬川

黄瀬川橋梁エリアの
主要視点場と求められる条件

- 12 橋の上から黄瀬川、賑わい広場、黄瀬川公園エリア、富士山方向
橋の上から富士山方向を眺めるにあたり、橋上の附属物等が主張せず、眺望を妨げないことが重要です。
- 13 富士見橋を通行する車両や歩行者からの見え方（下から側面方向）
黄瀬川橋梁のすぐ南側には並行して富士見橋が架かっており、黄瀬川橋梁よりも少し低い位置に架かっていることから、側面部の下からの景観に配慮し、意匠等に工夫が必要です。
- 14 駅側の橋詰付近から黄瀬川公園、富士山方向
駅側の橋詰付近から黄瀬川公園エリア、富士山方向を眺めるにあっても、同様に橋上の附属物等が主張せず、眺望を妨げないことが重要です。

黄瀬川橋梁エリアの
主な活動イメージ

- a 富士山方向を眺める
橋を利用する人が、通行しながら富士山方向を眺めることが想定されます。
- b 黄瀬川や賑わい施設・広場を眺める
橋を利用する人が、橋の上から立ち止まって黄瀬川を眺めたり、賑わい交流施設や広場を眺めたりすることが想定されます。



※ウーブン・シティはトヨタ自動車（株）が建設を進める実証実験の街であり、裾野市の整備計画に含まれていません。
※※「駅前拠点誘導施設（賑わい拠点誘導施設）」「観光交流拠点・情報発信施設」については民間活力を活用した整備を検討します。

05 デザインの考え方 / デザイン対象物（エリア毎）

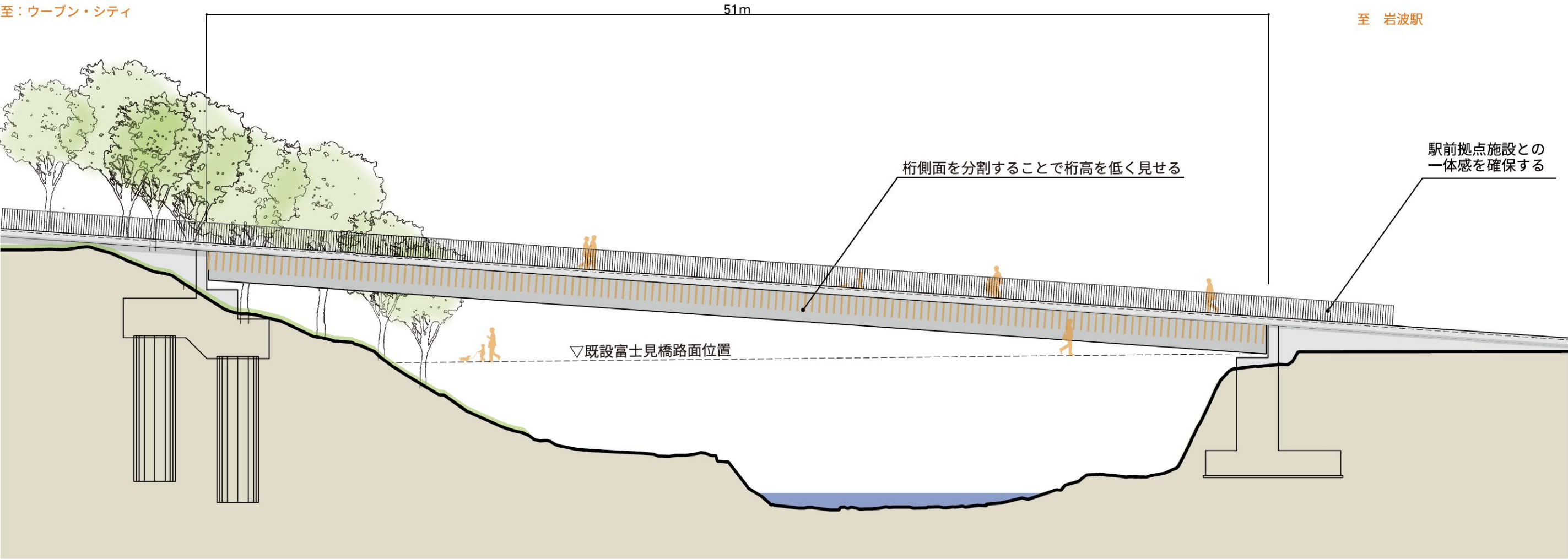
(3) 黄瀬川橋梁エリア

個別デザインの考え方

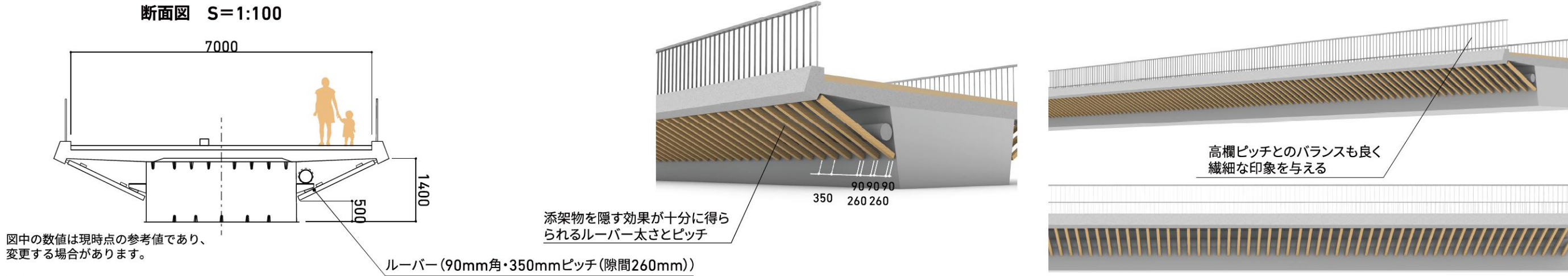
- ・黄瀬川の緑豊かで溶岩が露出した風景の中に設置されること、また隣接する富士見橋や駅前拠点施設などからの眺望の視界に入ることを踏まえ、ルーバーにより建造物の主張を和らげる **B**
- ・ルーバーは、桁側面を上下に分割することで桁高を低く見せると同時に、眺める角度によって異なる表情を生む配置やピッチとする **D**
- ・ルーバーは、地場産業にかかわる材料の採用を検討し、黄瀬川の緑豊かな風景に合わせた色とする **C-2**
- ・橋台形状やアプローチは、駅前拠点施設との関係を意識する **A D**
- ・地覆形状の工夫によりスレンダーな印象をつくる **D-1**
- ・素材や仕上げは耐久性に考慮することで、長く良好な状態を保てるように留意する **H-1**

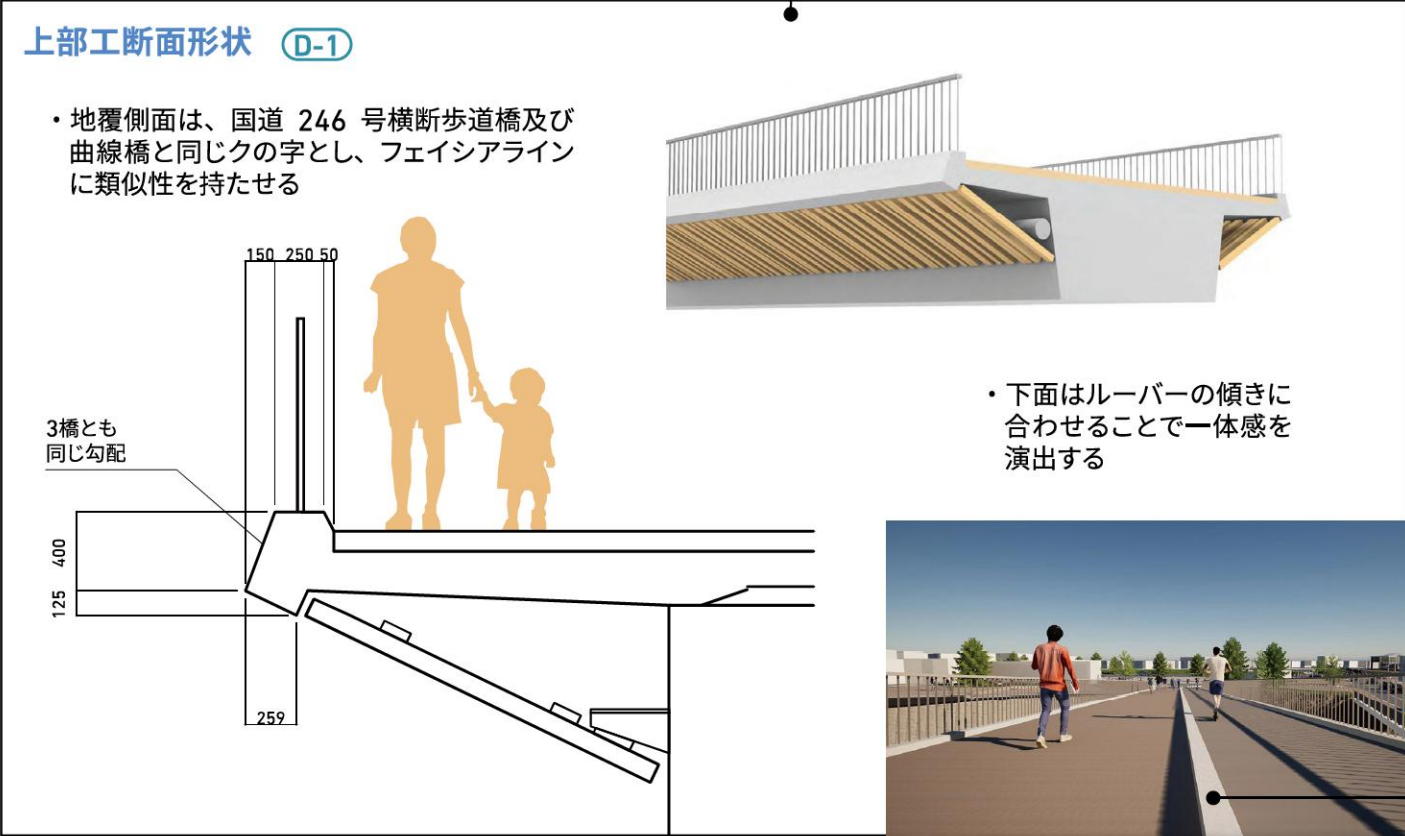
側面図 S=1:200

至：ウーブン・シティ

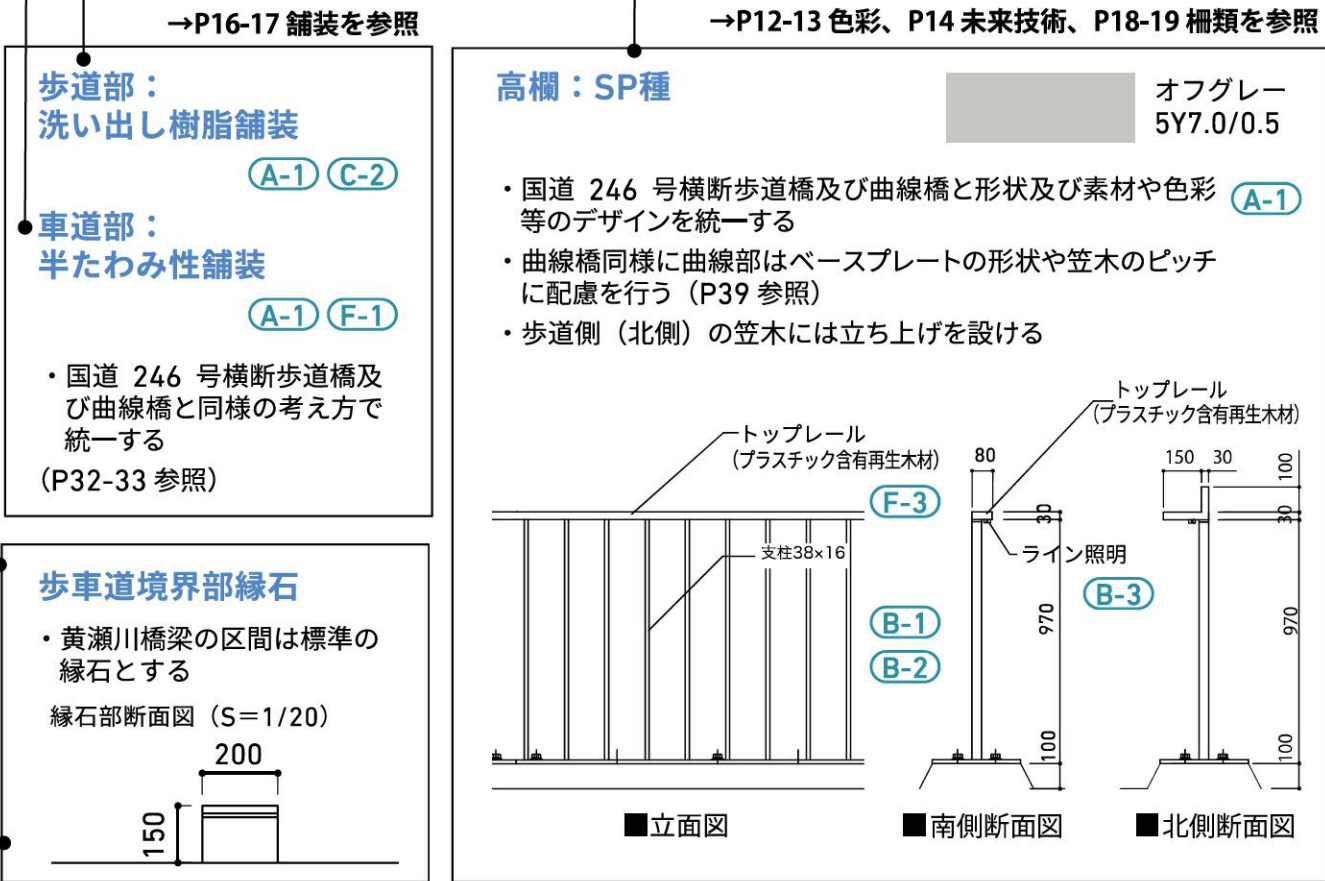


断面図 S=1:100



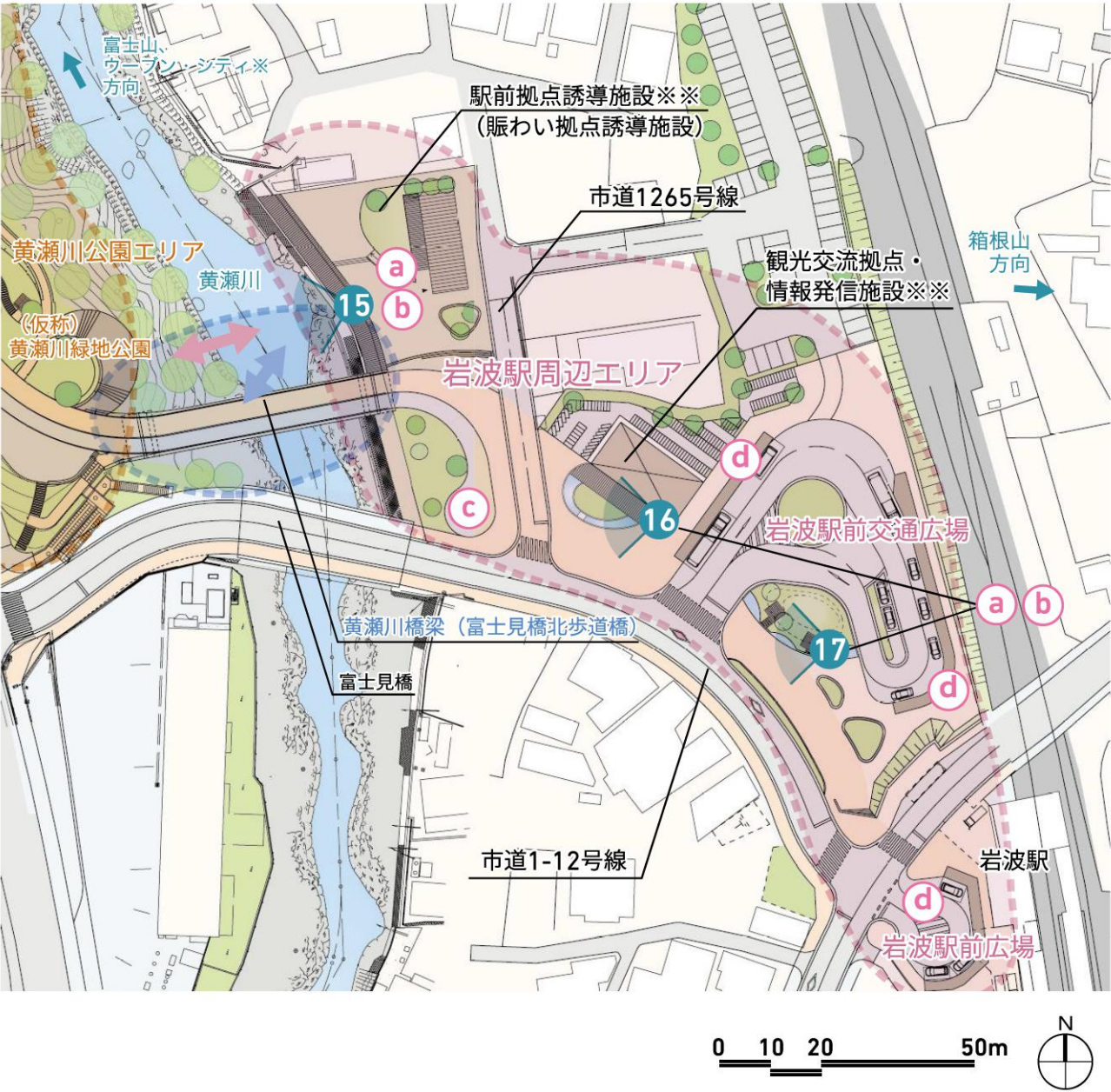


図中の数値は現時点の参考値であり、変更する場合があります。



図中の数値は現時点の参考値であり、変更する場合があります。

05 デザインの考え方 / デザイン対象物（エリア毎）
(4) 岩波駅周辺エリア



エリア資源



富士山



用水や溶岩の石積み

岩波駅周辺エリアの
主要視点場と求められる条件

15 賑わい施設から黄瀬川、
黄瀬川公園、富士山方向

黄瀬川や黄瀬川公園、富士山方向への眺めを大事にし、付属物等が主張せず、眺望の妨げとならないことが重要です。また、人々の滞留空間となるため、細部の設えにも配慮が必要です。



16 17 広場デッキ・ベンチから富士山方向

広場デッキ・ベンチから富士山方向を眺めるにあたっては、富士山を背景に、地域資源である用水や溶岩を活用するなど、エントランス、交流の場として岩波らしい印象を演出することが求められます。

また、読書や待ち合わせ等、人々の日常的な利用が促される空間、誰もが歩きやすい通行空間とすることが必要です。



岩波駅周辺エリアの主な活動イメージ

a 富士山方向を眺める

駅前広場を利用する人が、目の前に見える富士山を眺めながら通行したり、配置されるデッキ・ベンチから、ゆっくりと眺望を楽しんだりすることが想定されます。

b 会話や休憩等の交流

駅前広場を利用する人が、水景施設のせせらぎを楽しみながら、デッキやベンチに座って待ち合わせをしたり、会話や休憩をしたりすることが想定されます。

c パーソナルモビリティの乗り換え

パーソナルモビリティを利用する人の乗降スペースとなります。

d 車やバス、タクシーの乗り換え

岩波駅を利用する人の、車やバス、タクシーの乗降スペースとなります。

※ウーブン・シティはトヨタ自動車（株）が建設を進める実証実験の街であり、裾野市の整備計画に含まれていません。
※※「駅前拠点誘導施設（賑わい拠点誘導施設）」「観光交流拠点・情報発信施設」については民間活力を活用した整備を検討します。

05 デザインの考え方 / デザイン対象物（エリア毎）
 (4) 岩波駅周辺エリア



個別デザインの考え方

- ・富士山や黄瀬川の景観を妨げないよう、シェルターは屋根の厚みを極力薄くする (B-1)
- ・座れる場所を設け、交流が生まれるようなスペースをつくる (E-1)
- ・ベンチの座面には、廃プラスチックが含有された環境負荷低減に配慮した素材を使用する (F-3)
- ・岩波駅〜ウーブン・シティ間の景観形成のため、舗装や柵等は統一的な意匠を用いる (A-1)
- ・耐久性の高い素材を用いることで維持管理性に配慮し、良好な景観の持続性を高める (H-1) (H-2)

→P12-13 色彩、P18-19柵類を参照

横断防止柵、車止め

- ・安全性に配慮した見通しの良い空間とするため、横断防止柵は横桟とする (B-2)
- ・鋳鉄とすることで細くでき、かつ耐久性に優れる (D) (H-1)
- ・色彩はオフグレーとする (A-1)



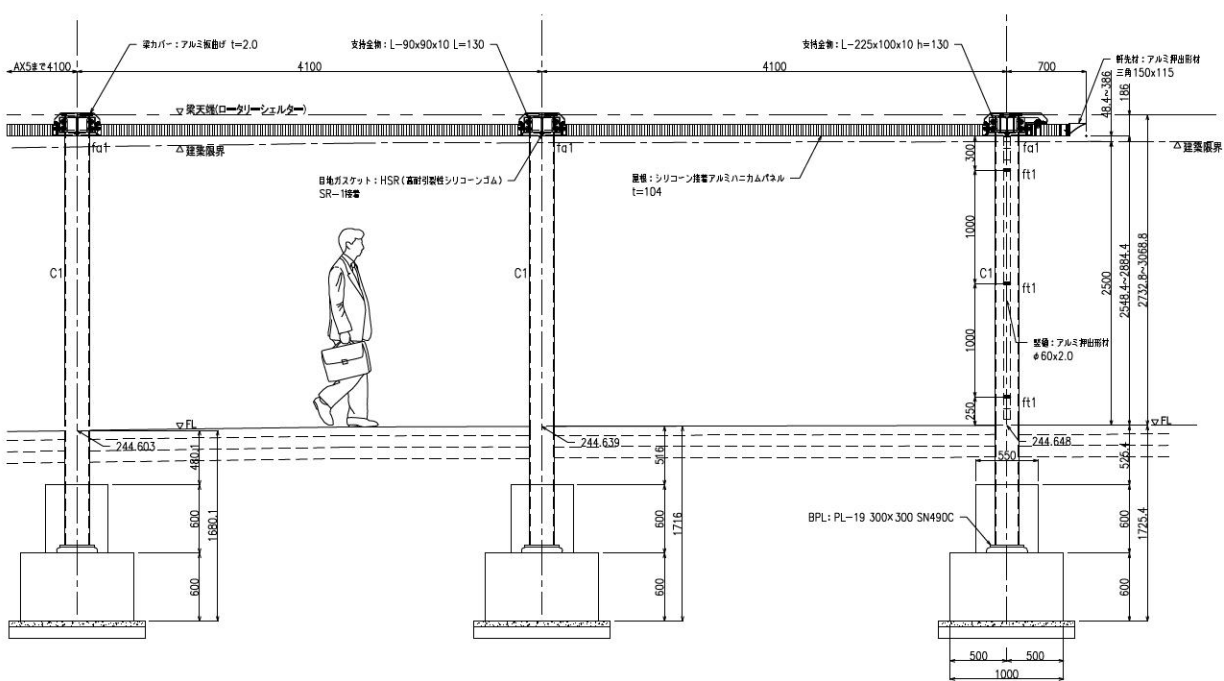
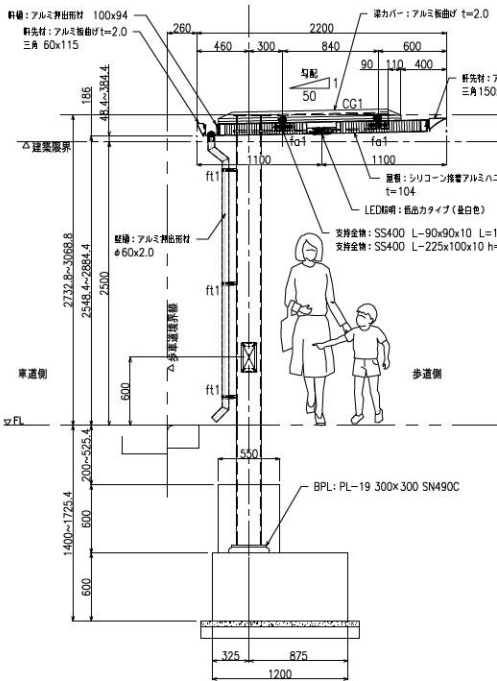
柱（鋳鉄）φ=34mm
 横桟（鋼管）φ=34mm
 H=800mm

（鋳鉄）
 φ=30mm
 H=800mm

画像出典：ヨシモトボール株式会社公式サイト（オフグレーのイメージに加工）

シェルター

- ・片持ちの構造形式とし、柱の重なりを減らし遮蔽物を少なくすることでスッキリとしたデザインとする (B-2) (B-3)
- ・地場産業にかかわる材料を用い、岩波の緑豊かな風景に合わせた色とする (C-2)



図中の数値は現時点の参考値であり、変更する場合があります。



→P12-13 色彩、P14 未来技術を参照

デッキ・ベンチ (A-1)(D-1)(E-1)(F-3)(H-1)(H-2)

- ・黄瀬川公園のデッキ・ベンチと合わせる
(P42-43 参照)

→P16-17 舗装を参照

飛石（階段部）

- ・黄瀬川公園と合わせる（P42 参照）



→P16-17 舗装を参照

歩道・土工部：
透水性洗い出し舗装

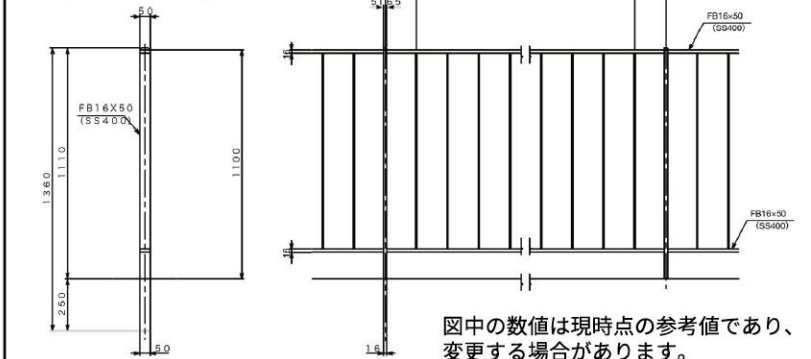
- ・黄瀬川公園の歩道・土工部と合わせる
(P40 参照)

● 車道部：半たわみ舗装

- ・その他エリアと合わせる
(P32 参照)

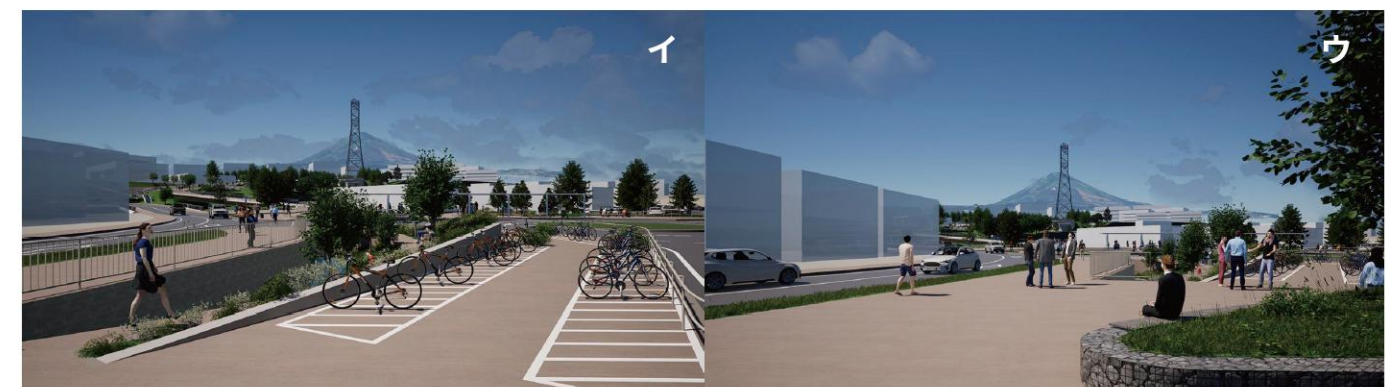
→P12-13 色彩、P18-19 柵類を参照

転落防止柵 (A-1)



メイン動線の転落防止柵（P種）
（P41参照）

オフグレー
5Y7.0/0.5



岩波駅周辺 まちづくりの道しるべ
まちづくりデザインノート〈技術編〉

令和6年3月

発行：裾野市建設部 駅周辺整備課

〒410-1192 静岡県裾野市佐野1059番地
TEL 055-994-9010 / FAX 055-994-1279